

校内資料

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成22年度

在学生・教職員

KTC総合アンケート調査結果

[報告書 抜粋]

金沢工業高等専門学校

平成22年度KTC総合アンケート調査結果について

KTC総合アンケートは、学生の真摯な回答が得られるにつれ、本校FD活動の道具の1つとしてその重要性を増している。同時に、アンケート活動に関して対応する学校側の責任が増してきていることを深く認識している。評価のみ求めて改善は後回しと言うやり方は、この種の活動の最も忌みすべき行動である。KTC教育評価委員会は、本アンケート結果と各種評価結果を総合的に分析し、本校の進むべき方向を模索し、必要な具体的施策を提言することとなる。

本年度のアンケート結果には、企業並びに卒業生からのご意見は含まれない。このことは、急速に変化するグローバル化社会に対応し、地域密着型の高専として方向を打ち出している本校の今後の課題となる。

高専は、社会からは即戦力養成の場として、学生からは知識吸収や日々の楽しみ場の場として、並びに、教職員にはなりわいと個人の幸せ追及の場として存在している。いずれかの要素に偏重することは、学生教育上問題を発生させることになる。私学が公立学校と異なる点は、この学校が或る「理念」の下に存在し、それを追及する人間の組織として存在し、それを求める学生が集まっていると考えることができることである。前年同様、今年も学生の本校に対する印象度が向上したことは嬉しいことである。学生募集は低迷しつつも向上しており、教職員は多忙感や業務集中を訴えながら頑張っている。限りある資源を大切にして改善を進める必要がある。アンケートの総合判定結果や多くの意見は、上記観点に立って評価されるべきであり、各種の提言は明日への改善策として活用されなければならない。

本校は、学校・教職員、保護者、学生の三位一体となった教育改善活動を行ってきた。この結果を今後の学校改革に活用して行きたい。結果の総括と分析にご協力賜ったアイポイント、並びにCS室の方々に感謝申し上げます。

金沢工業高等専門学校
校長 山田 弘文

全体概略

調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。

この調査企画では、在学生と教職員に金沢高専の評価を聞き、各々の意識の違いを見いだすことで、今後の学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。(今回は卒業生、企業担当者への調査は実施していない。)

本調査は平成15年度から続いており、今回で8回目となるが、前回に内容を大きく見直している。

平成17年度の調査までは年度末(2月初旬)に実施しており、平成18年度と平成19年度は9月中旬の実施に変更したが、H20年度からは年度末の実施に戻している。

調査の概略

| 項目 | 内容 | |
|------|---------------------------|---|
| 調査概略 | 調査票による自記入式調査とし、全て無記名式とした。 | |
| 総回答数 | 537サンプル | |
| | 1年生～5年生 | <ul style="list-style-type: none">有効回答数 1年生:115サンプル、2年生:79サンプル、3年生:80サンプル、4年生:102サンプル、5年生:99サンプル各クラスで配布し、回収した。(配布&回収:平成23年2月18日) |
| | 卒業生 | <ul style="list-style-type: none">今回は実施せず。5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成25年度の予定。 |
| | 教職員 | <ul style="list-style-type: none">有効回答数 62サンプル各教職員に配布し、回収した。(配布:平成23年2月7日、回収:平成23年3月5日) |
| | 企業担当者 | <ul style="list-style-type: none">今回は実施せず。5年に1回実施する予定で、次回の実施は平成25年度の予定。 |
| 調査主体 | 学校法人 金沢工業大学 | |
| 集計 | 有限会社 アイ・ポイント | |

集計に関して

| 分野 | 注意点 |
|----------|---|
| 加重平均に関して | <ul style="list-style-type: none"> 各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。 |
| グラフに関して | <ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。 |
| 呼称に関して | <ul style="list-style-type: none"> 平成21年度の1年生から学科構成が「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報工学科」となっており、これまでの「電気情報工学科」「機械工学科」「国際コミュニケーション情報工学科」とは異なっているが、学科別集計、部会別集計では同系列の学科を合わせて集計を行った。 学科別に時系列の集計を行う場合には、同系列の学科を合わせて、「電気情報・電気電子」「機械」「国情・グローバル」という3つの学科として比較を行った。 |

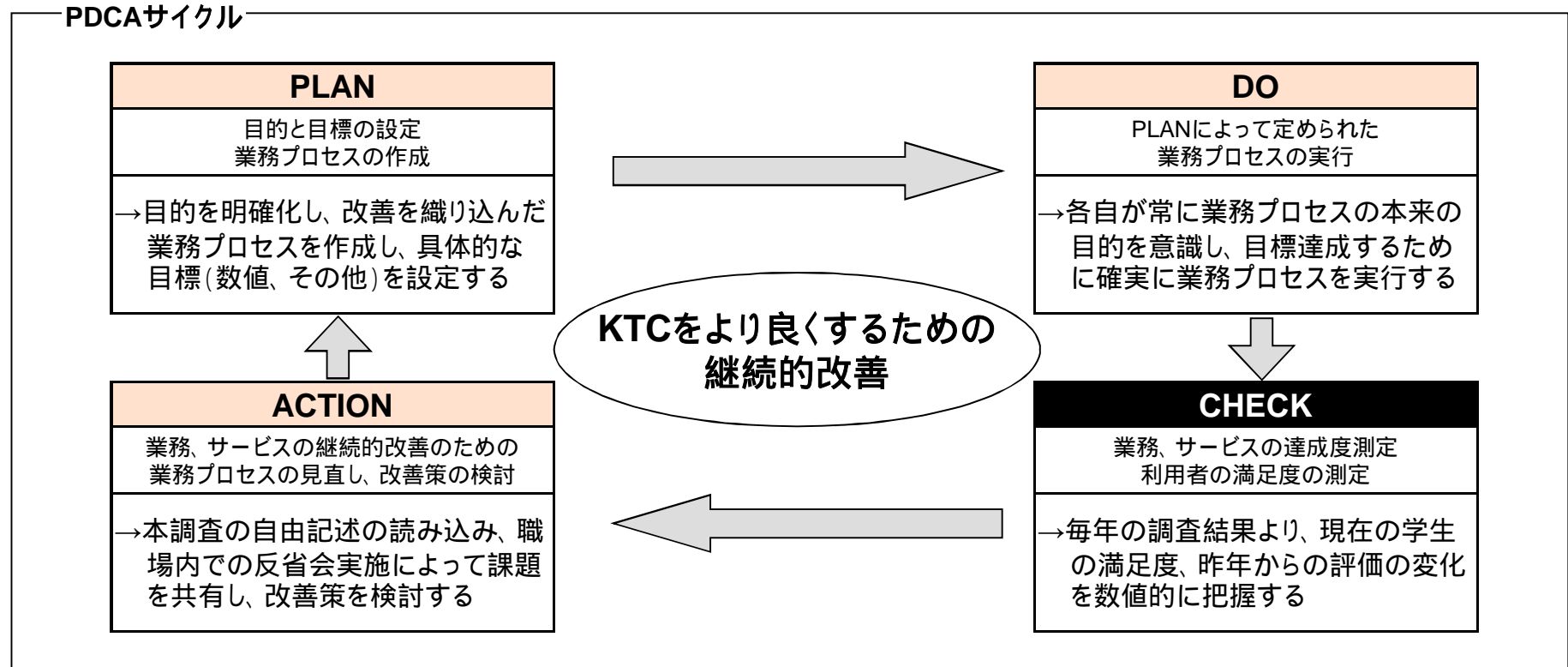
回答者数に関して

| 学年 | 平成22年度 回答者(今回分) | 平成21年度 回答者 | 平成20年度 回答者 | 平成19年度 回答者 | 平成18年度 回答者 | 平成17年度 回答者数 | 平成16年度 回答者数 | 平成15年度 回答者数 |
|-------|--------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|----------------|----------------|
| 1年 | 115人 | 81人 | 110人 | 92人 | 121人 | 122人 | 135人 | 140人 |
| 2年 | 79人 | 104人 | 105人 | 108人 | 117人 | 130人 | 135人 | 127人 |
| 3年 | 80人 | 92人 | 95人 | 88人 | 113人 | 113人 | 98人 | 113人 |
| 4年 | 102人 | 103人 | 103人 | 114人 | 121人 | 113人 | 109人 | 121人 |
| 5年 | 99人 | 96人 | 111人 | 124人 | 105人 | 101人 | 116人 | 129人 |
| 卒業生 | 0人(実施せず) | 0人(実施せず) | 77人 | 0人(実施せず) | 0人(実施せず) | 0人(実施せず) | 0人(実施せず) | 66人 |
| 教職員 | 62人 | 53人 | 59人 | 52人 | 50人 | 48人 | 56人 | 50人 |
| 企業担当者 | 0人(実施せず) | 0人(実施せず) | 36人 | 0人(実施せず) | 0人(実施せず) | 0人(実施せず) | 0人(実施せず) | 65人 |
| 合計 | 537人 | 529人 | 696人 | 578人 | 627人 | 627人 | 649人 | 811人 |

PDCAサイクルに関して

PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、下記のようにCHECKステップに位置づけられる。



今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。

この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。

また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、金沢高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考と位置づけられるものである。

「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。

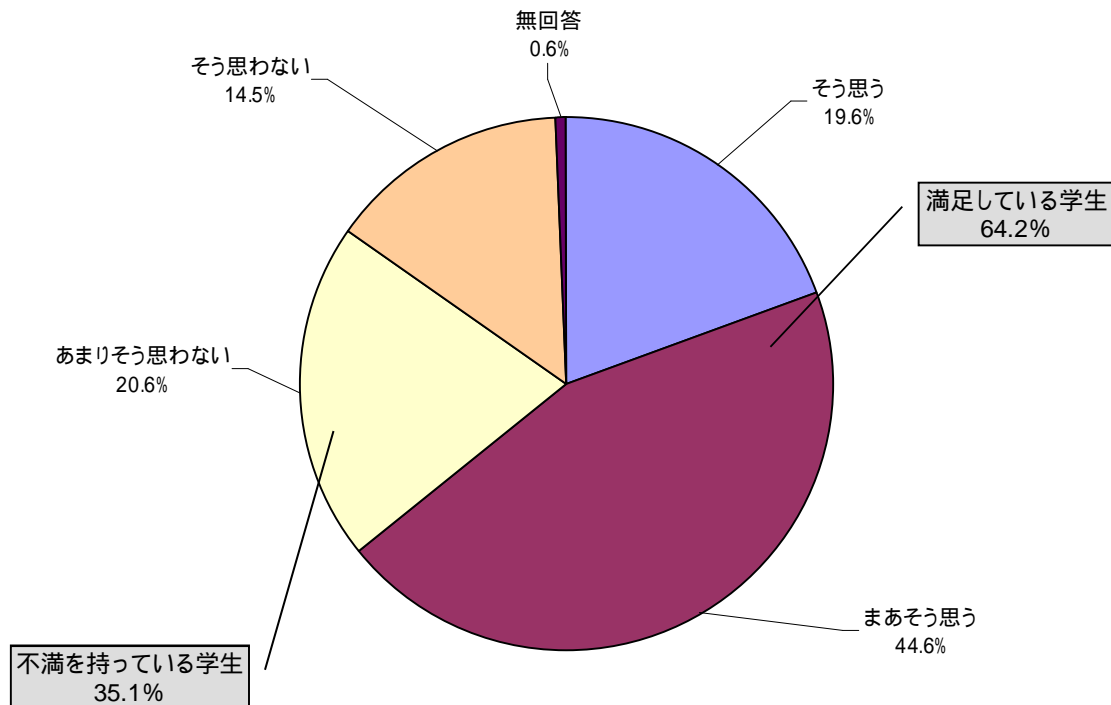
本報告書は、上記のような位置づけを継続していくことで、金沢高専の改善に資することを目的としている。

金沢高専の総合的な満足度

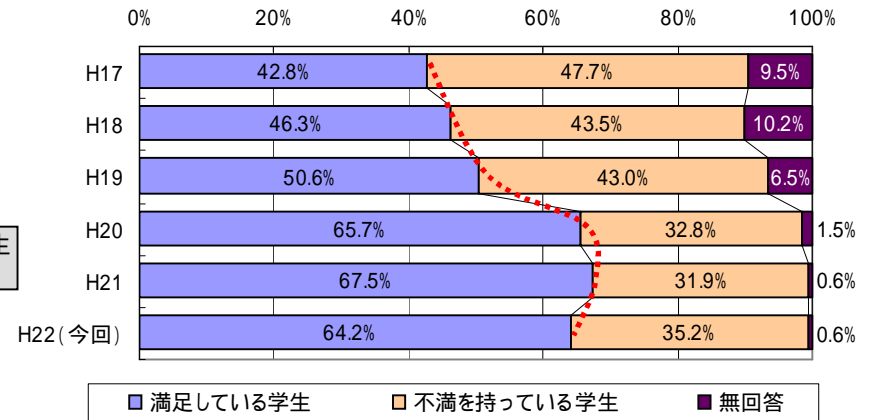
本年度の総合的な満足度

「総合的に見て金沢高専に満足していますか？」という質問に対しては、「まあそう思う」が44.6%で最も多かったが、「そう思う」(19.6%)と合わせると、64.2%は金沢高専に満足していると回答しており、不満を持っている学生は35.1%という結果であった。
 H17年からの年度別比較を見ると、「満足している学生」の割合はH21と比べると3.3ポイント減少し、調査開始以来で初めての低下であったが、満足度は決して低くなく、H21、H20に次ぐ高さであった。

総合的に見て金沢高専に満足していますか？(在校生のみ)



金沢高専の総合的な満足度 年度別比較



金沢高専の総合的な満足度 年度別内訳

| 年度 | 満足している学生の合計 | | 不満を持っている学生の合計 |
|---------|-------------|---|---------------|
| H17 | 42.8% | < | 47.7% |
| H18 | 46.3% | > | 43.5% |
| H19 | 50.6% | > | 43.0% |
| H20 | 65.7% | > | 32.8% |
| H21 | 67.5% | > | 31.9% |
| H22(今回) | 64.2% | > | 35.2% |

総合的満足度の学年別比較

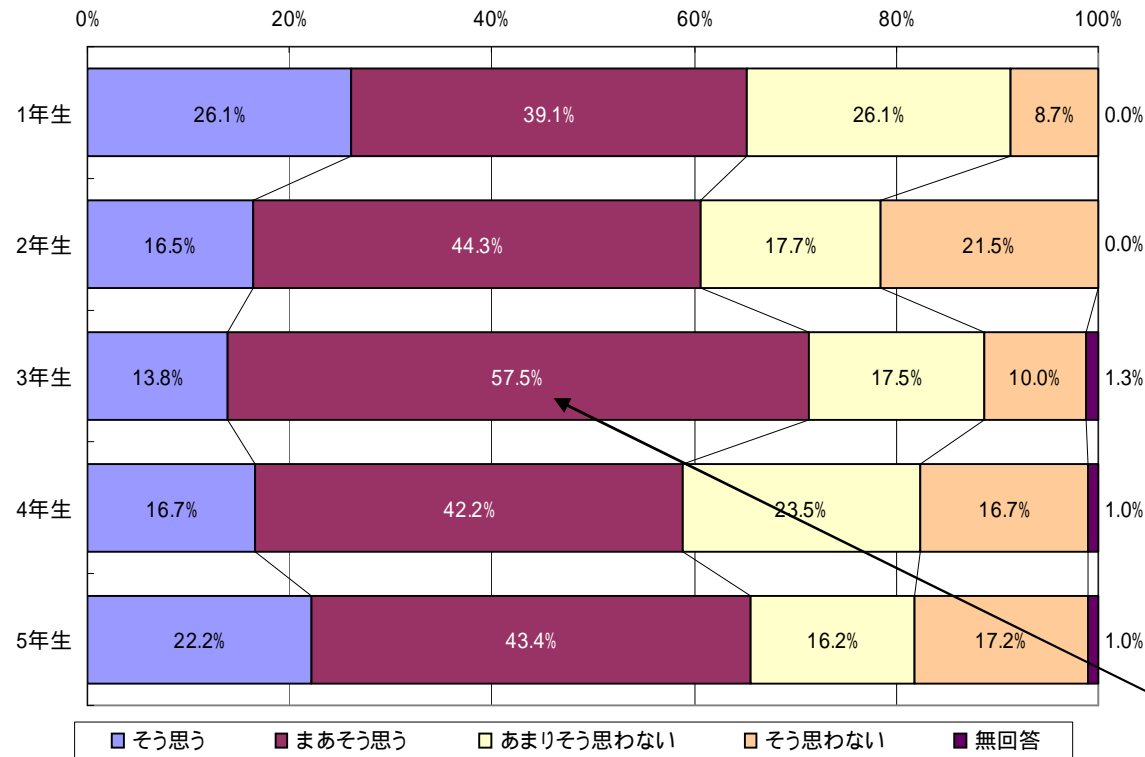
前項で見た「総合的な満足度」を学年別に比較したところ、下記のようなグラフとなった。

「そう思う」だけを見ると、「1年生」と「5年生」が多く、「まあそう思う」との合計で比較すると「1年生」は65.2%、「5年生」は65.6%が満足と答えており、この2学年の満足度の高さがうかがえた。

特徴的であったのは「3年生」であり、「そう思う」は13.8%と全学年で最も少なかったが、「まあそう思う」が57.5%と非常に多く、「そう思う」との合計は71.3%となり、最も満足している学年と言える。ただし、「そう思う」が少ないことから、3年生はまあまあ満足していると感じている学生が多く、強く満足している学生は少ないように思われる。

「2年生」と「4年生」は似たような傾向であり、満足度は中程度で、「そう思わない」が多い点が特徴的であった。「5年生」も全体としては満足度は高いが、「そう思わない」が17.2%と多く、これらの学年では強い不満を感じている学生が各々2割程度いるようであった。

金沢高専の総合的満足度 学年別比較



金沢高専の総合的満足度 学年別内訳

| 学年 | 満足している学生の合計 | | 不満を持っている学生の合計 |
|-----|-------------|---|---------------|
| 1年生 | 65.2% | > | 34.8% |
| 2年生 | 60.8% | > | 39.2% |
| 3年生 | 71.3% | > | 27.5% |
| 4年生 | 58.9% | > | 40.2% |
| 5年生 | 65.6% | > | 33.4% |

すべての属性で「満足」の割合が「不満」を超えた

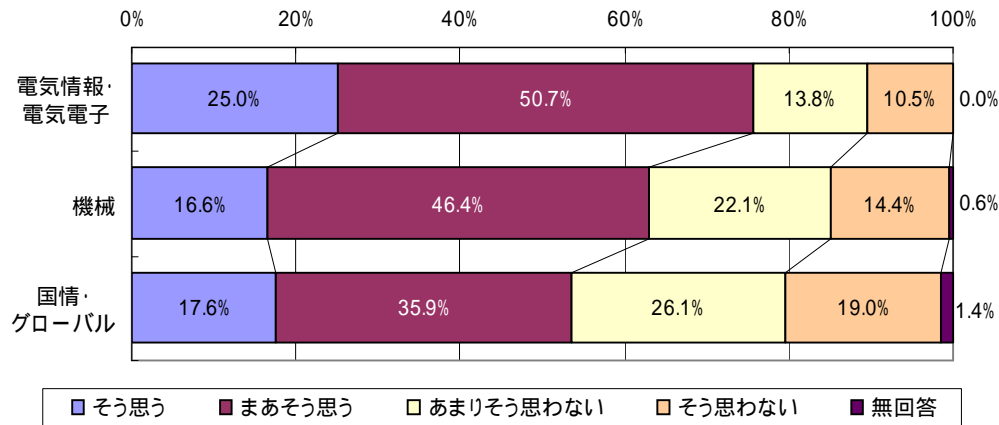
3年生の満足度の高さが目立っているが、「そう思う」だけを見ると最も少ない

総合的満足度の学科別比較

高専の総合的な満足度を学科別に比較したところ、「そう思う」は「電気情報・電気電子」で25.0%とやや多く、「機械」と「国情・グローバル」は17%前後でほぼ同じであった。「まあそう思う」を加えると「電気情報・電気電子」は75.7%が満足と答えており、次いで「機械」(63.0%)、「国情・グローバル」(53.5%)と続いており、「電気情報・電気電子」と「国情・グローバル」では22.2ポイントの差がついていた。

学科別の年度別比較を見ると、「電気情報・電気電子」はH17から継続的に満足度が上がっており、今回はこれまでで最も高くなっていた。「機械」と「国情・グローバル」はH20からH21にかけては横這い状態であったが、今回は両学科共に満足度が低下していた。「機械」の低下は6.1ポイントであったが、「国情・グローバル」は14.7ポイントと大きく低下していた。

金沢高専の総合的満足度 学科別比較 (在学生のみ)

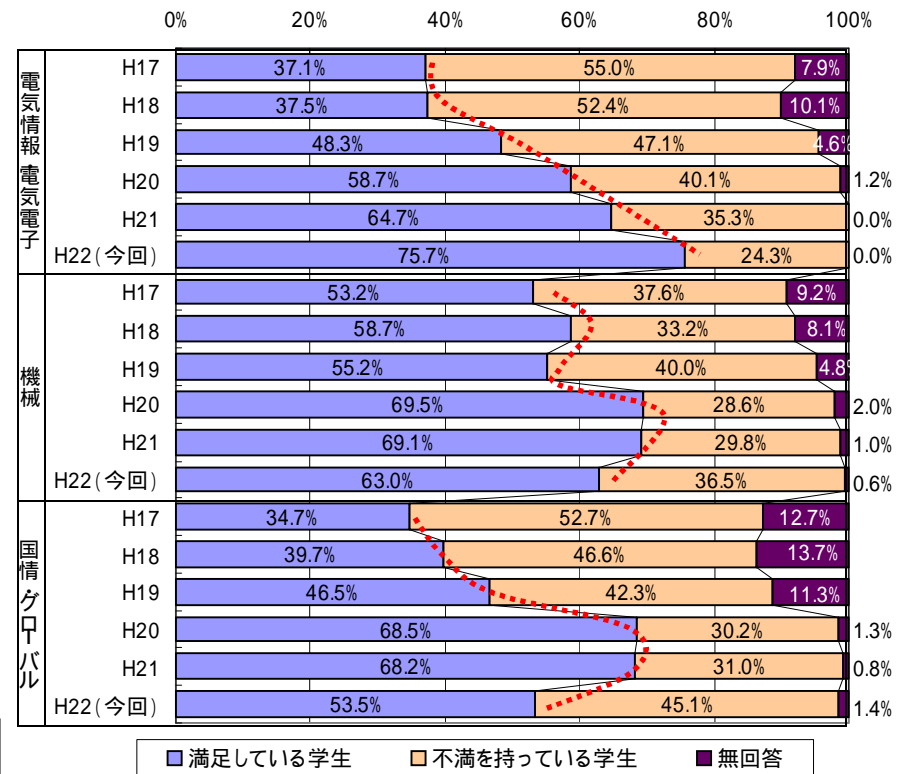


金沢高専の総合的満足度 学科別内訳

| 学年 | 満足している学生の合計 | | 不満を持っている学生の合計 |
|-----------|-------------|---|---------------|
| 電気情報・電気電子 | 75.7% | > | 24.3% |
| 機械 | 63.0% | > | 36.5% |
| 国情・グローバル | 53.5% | > | 45.1% |

全学科共に満足している学生の方が多い

金沢高専の総合的満足度 学科別・年度別比較



目的・目標に関する意識に関して

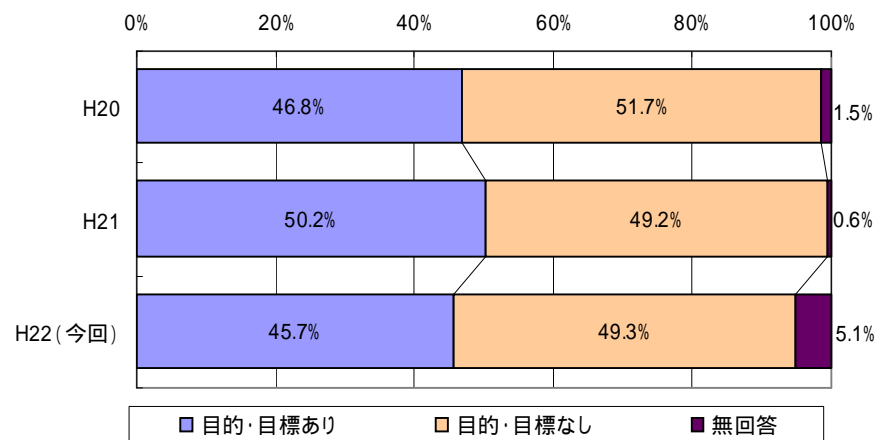
在学中の「目的・目標」の意識

「目的・目標」に関しては、前回までは「高専に入ったらこれがやりたいという入学前の目的・目標」の有無と、「現在、高専生活をおくる上での目的・目標」の有無の2点を聞いていたが、今回から後者の「在学中の目的・目標」だけに絞って聞いている。

今回の結果を見ると「目的・目標あり」は45.7%、「目的・目標なし」が49.3%と、いずれも半数程度であり、「目的・目標なし」の方が3.6ポイント多かった。

年度別に比較すると、「目的・目標あり」は前回よりも4.5ポイント減少しており、H20と比べても1.1ポイント少なかった。それほど大きな変化ではないが、現在、目的・目標を持っている学生はこれまで最も少なくなっていた。

在学中の「目的・目標」の意識 年度別比較



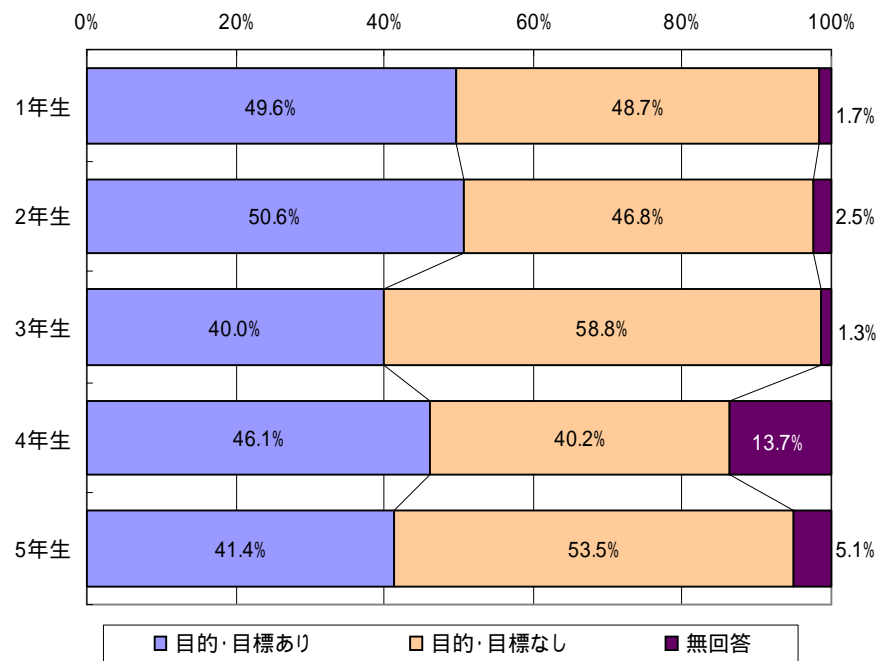
「目的・目標」の意識の学年別比較

在学中の「目的・目標」の意識を学年別に比較したところ、「3年生」と「5年生」で「目的・目標なし」が5割を超えており、目的・目標が見えていない学生がやや多いようであった。その他の学年は「目的・目標あり」の方が多く、わずかな差ではあるが「2年生」は「目的・目標あり」が50.6%であり、最も多かった。

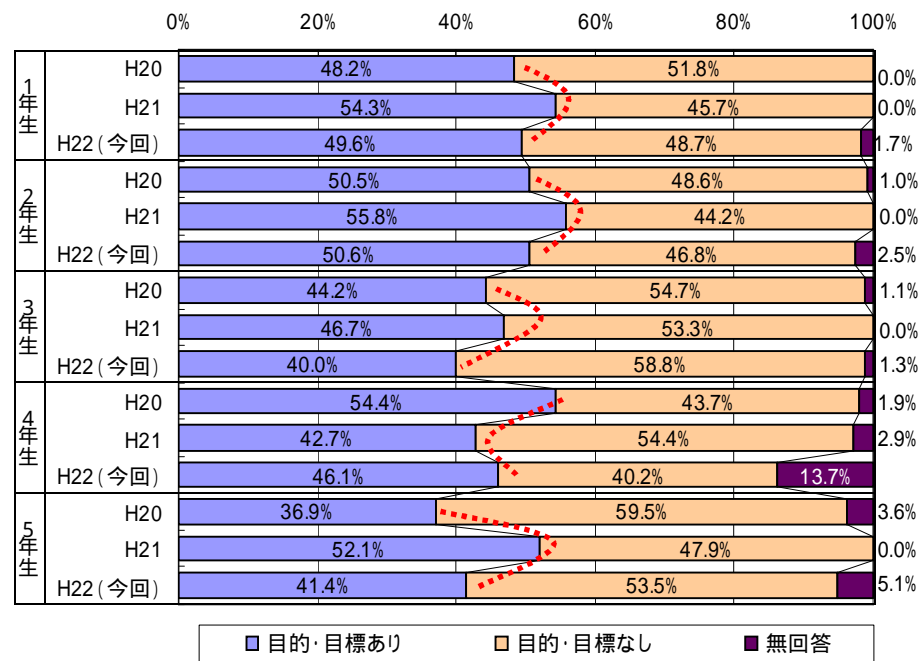
学年別の年度別比較を見ると、「4年生」は前回と比べて「目的・目標あり」が増加したものの、他の学年は全て前回より低下しており、目的・目標が見えなくなっている様子が見えられた。

特に「3年生」と「5年生」では「目的・目標あり」の割合が大きく低下しており、「3年生」はこれまでで最も少なくなっていた。

在学中の「目的・目標」の意識 学年別比較



在学中の「目的・目標」の意識 学年別・年度別比較



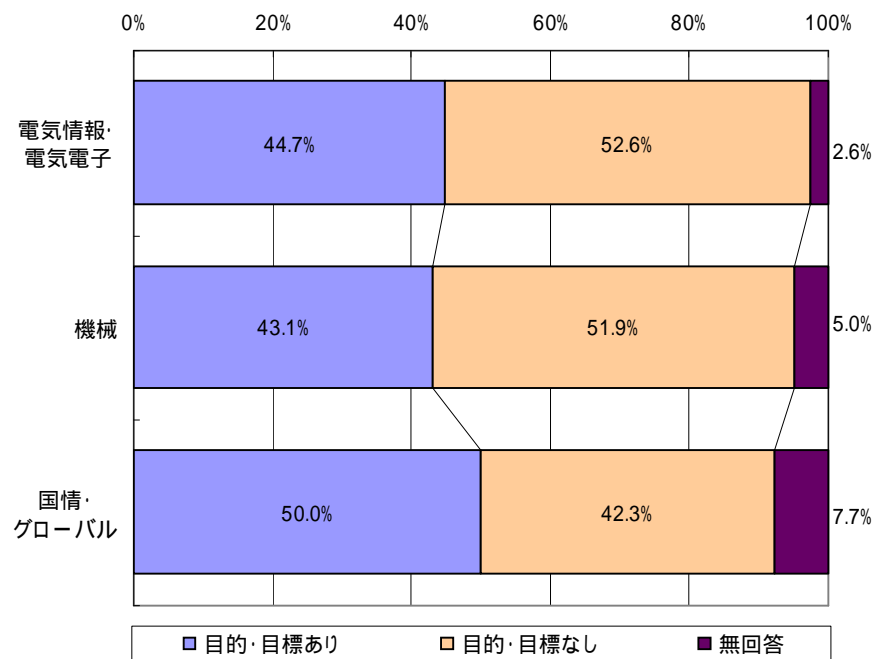
「目的・目標」の意識の学科別比較

現在の「目的・目標」の意識を学科別に比較したところ、「目的・目標あり」の割合は「国情・グローバル」が50.0%で最も多く、次いで「電気情報・電気電子」(44.7%)、「機械」(43.1%)の順となっており、「国情・グローバル」の目的・目標の意識が最も強いことが分かった。

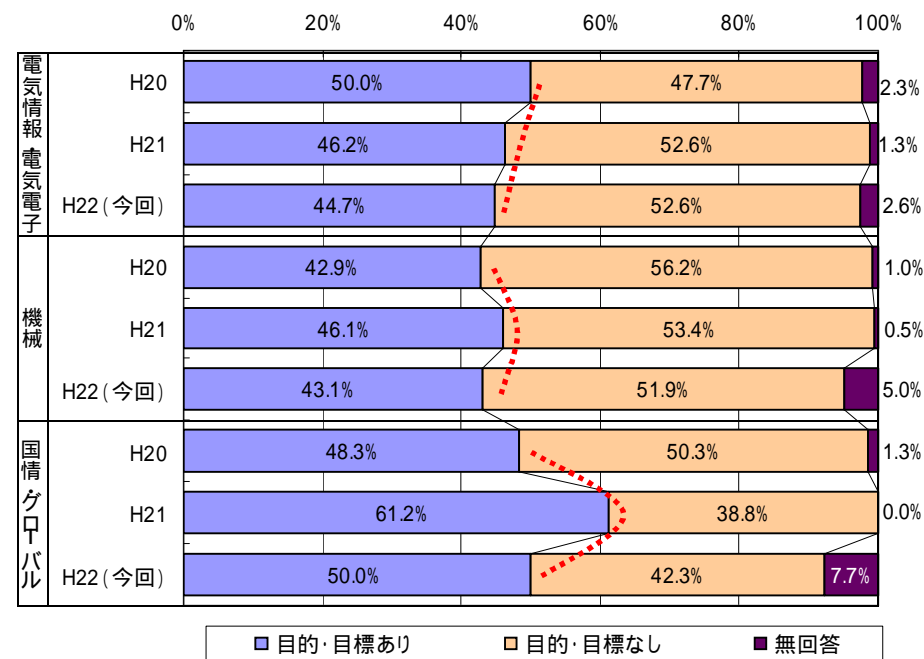
学科別の年度別比較を見ると、「電気情報・電気電子」では「目的・目標あり」が徐々に減少してきており、今回はこれまでで最も少なくなっていた。「機械」は3年間の変動が非常に少ないが、今回は前回は3.0ポイント下回っていた。

「国情・グローバル」の変化は非常に大きく、「目的・目標あり」の割合は前回の61.2%を11.2ポイント下回っており、H20と同じレベルとなっていた。

在学中の「目的・目標」の意識 学科別比較



在学中の「目的・目標」の意識 学科別・年度別比較



授業に関して

授業に対する評価

授業に対する満足度を「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較したところ、最も満足度が高かった科目は「理数・英語以外の一般科目」であり、81.1%が満足と答えていた。

「インターンシップ」は4年生と5年生だけに聞いたものであるが、上記に次いで満足度が高く、特に「そう思う」が43.8%と非常に多い点特徴的であり、強い満足を得ている学生が多いことが分かる。

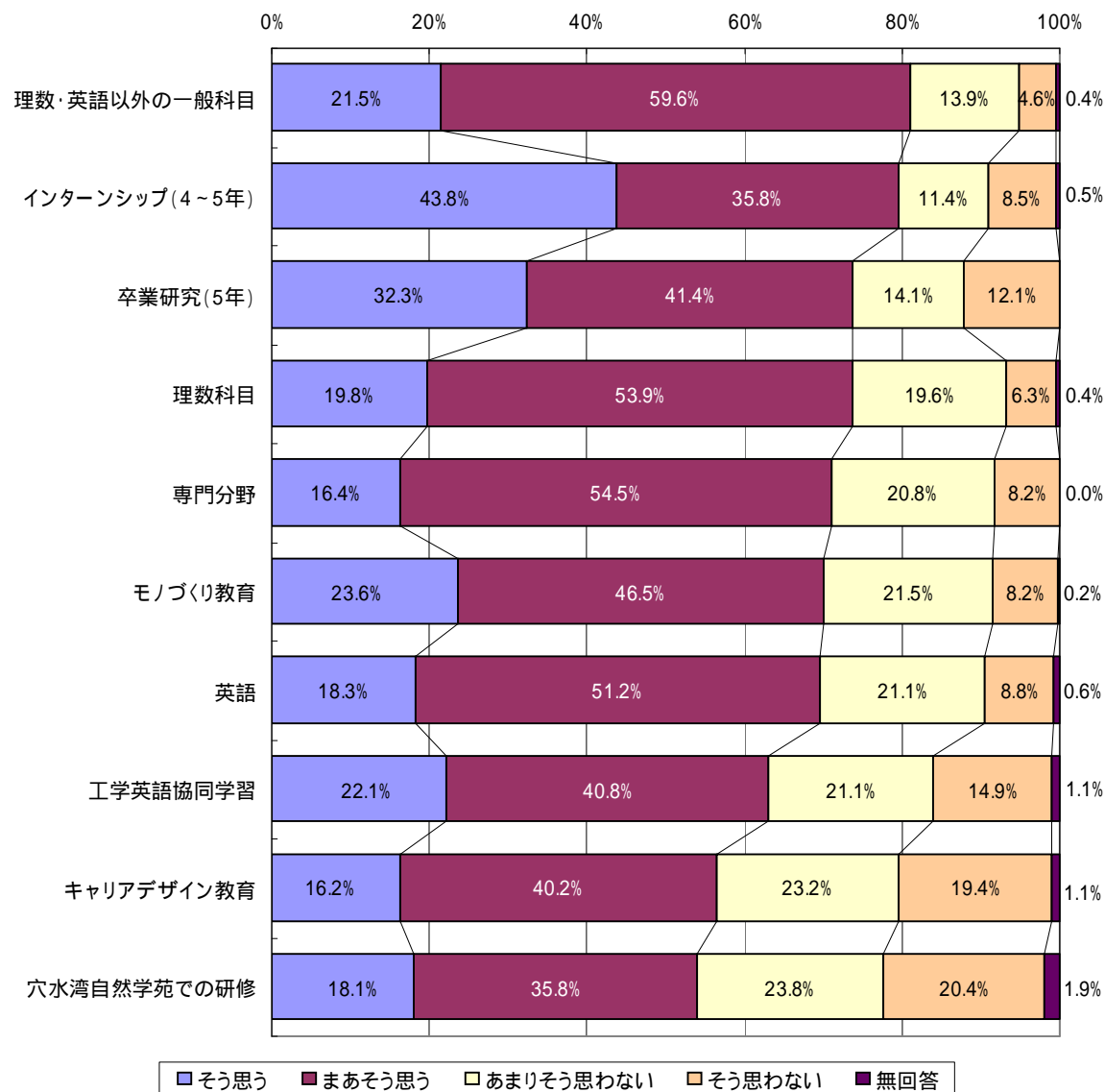
「卒業研究」は5年生だけに聞いたものであるが、ここでも「そう思う」が32.3%であり、強い満足を得ている学生が多いようであった。

一方、満足度が最も低かったのは「穴水湾自然学苑での研修」であり、「そう思う」は18.1%と少なくはなかったが、「まあそう思う」が35.8%と少なく、合わせて53.9%であった。

次いで、「キャリアデザイン教育」「工学英語協同学習」「英語」と続いており、英語系の満足度の低さが気になった。

「モノづくり教育」も「そう思う」が23.6%、「まあそう思う」が46.5%であり、合わせると70.1%と満足度は決して低くないが、カリキュラムの目玉でもあり、更に満足度を増す施策が必要だと思われる。

授業に対する満足度(在学生のみ)



教員および学習支援に関して

教員および学習支援の満足度

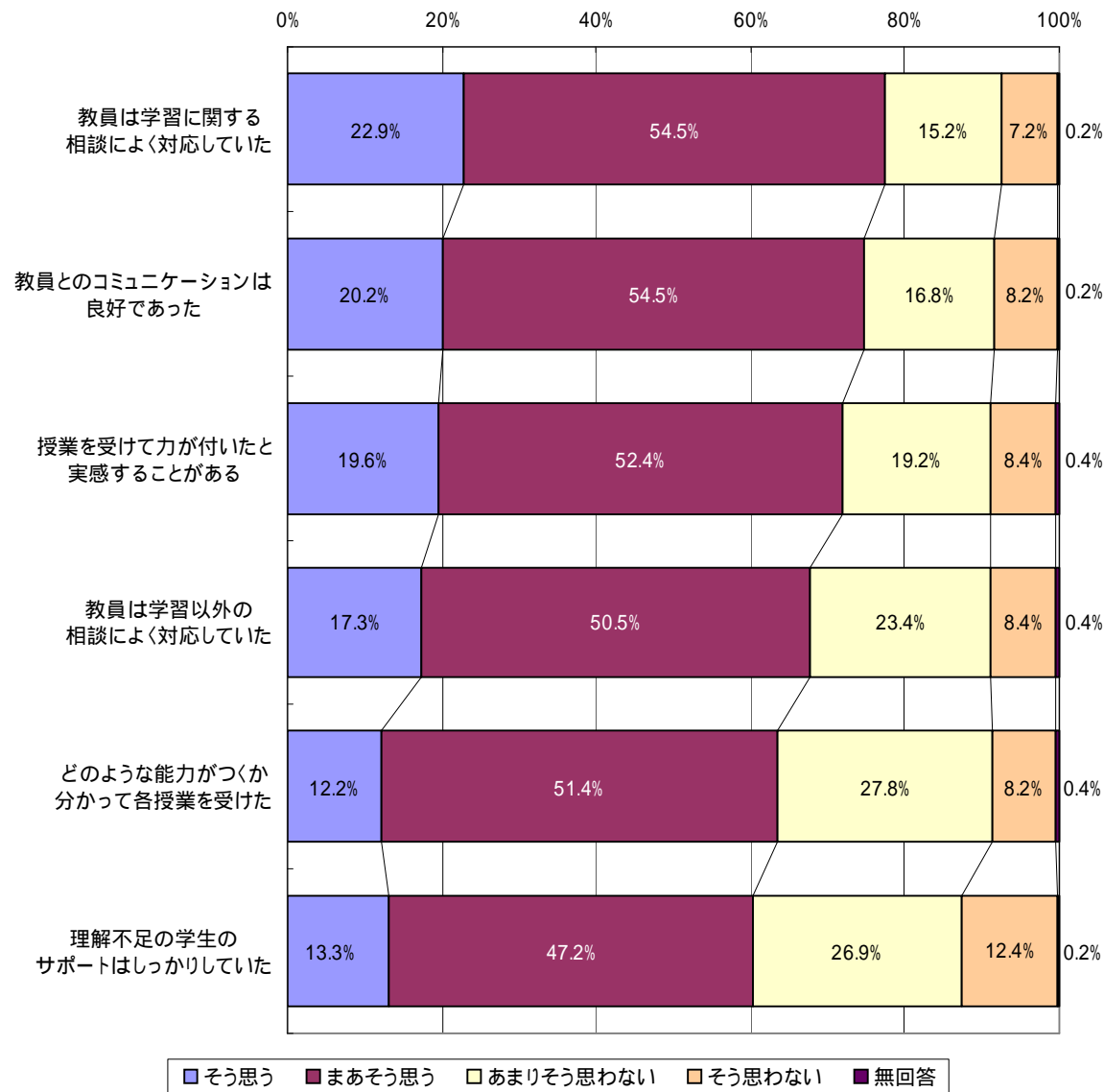
教員および学習支援の満足度を「そう思う」と「まあそう思う」の合計で見ると、最も満足度が高かったのは「教員は学習に関する相談によく対応していた」であり、77.4%が満足と答えていた。

上記に次いで、「教員とのコミュニケーションは良好であった」は74.7%が満足しており、コミュニケーションにも大きな問題はなさそうであった。

一方、評価が最も低かったのは「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」であり、60.5%は満足していたものの、39.3%は不満を持っていた。

また、「どのような能力がつくか分かって各授業を受けた」では36.0%が不満を持っており、授業での説明不足もあるようであった。

教員および学習支援の満足度 (在学生のみ)



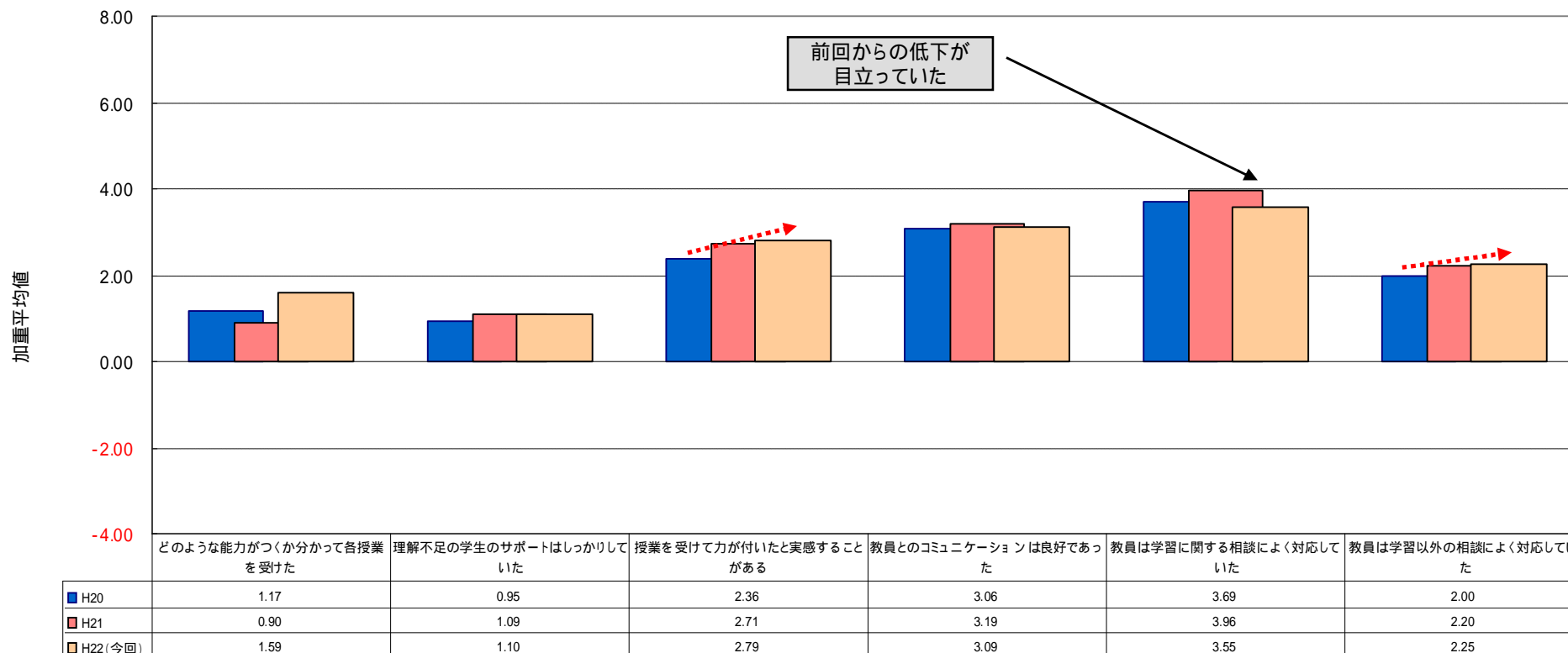
教員および学習支援の満足度の年度別比較

教員および学習支援の満足度の年度別比較を見ると、ほとんどの項目で変化はそれほど大きくなかったが、「授業を受けて力が付いたと実感することがある」と「教員は学習以外の相談によく対応していた」の2項目はわずかずつであるが継続的に評価が上がっていた。

一方、「教員は学習に関する相談によく対応していた」は前回よりも低くなっており、学生の評価は厳しくなっていた。

「どのような能力がつくか分かって各授業を受けた」は、H20からH21にかけて唯一低下した項目であったが、今回は評価が良くなっており、指導方法が変わったなど、何らかの要因があるものと思われる。

教員および学習支援評価 年度別比較



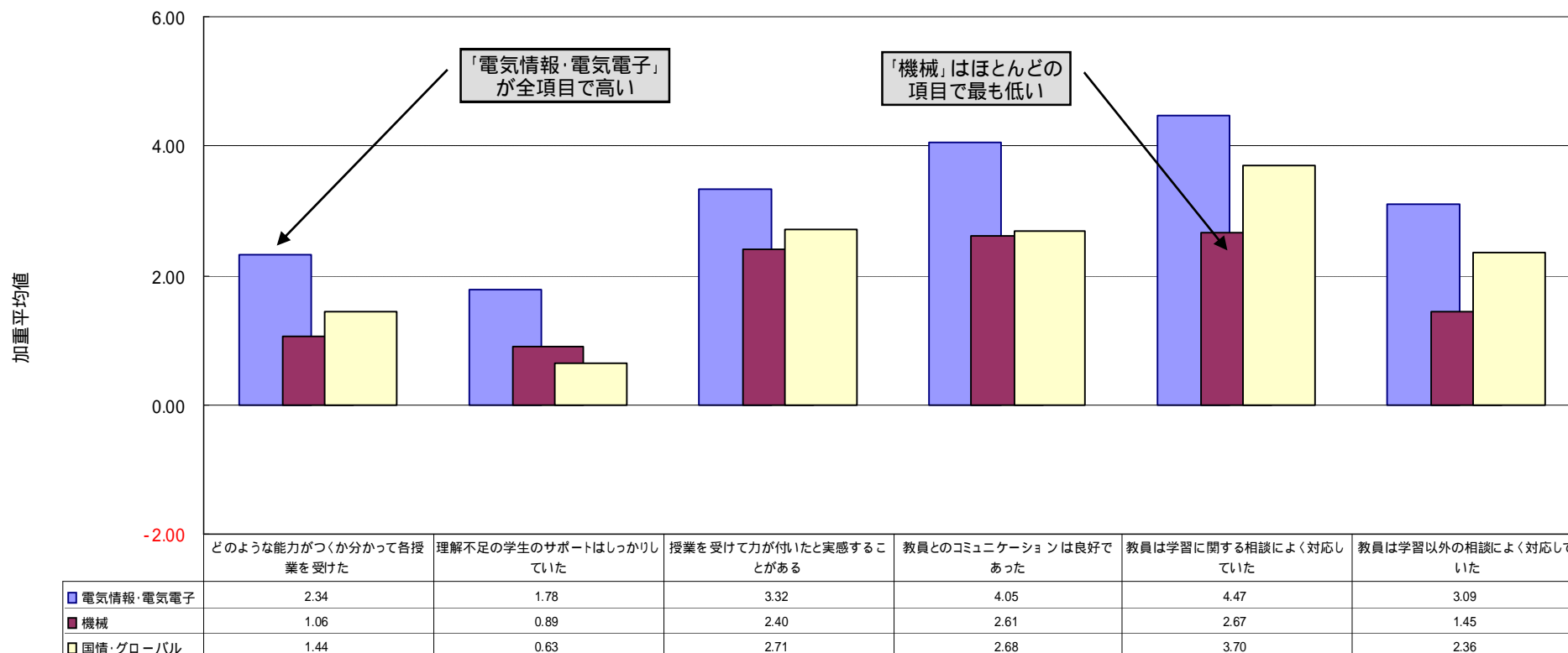
教員および学習支援の満足度の学科別比較

教員および学習支援の評価を学科別に比較したところ、「電気情報・電気電子」は全ての項目で最も評価が高かった。特に「どのような能力がつくか分かって各授業を受けた」「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」「教員とのコミュニケーションは良好であった」の高さが目立っており、教員との関係性の良さがうかがえる結果であった。

一方、「機械」は「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」以外の項目で、最も評価が低かった。特に「教員は学習に関する相談によく対応していた」「教員は学習以外の相談によく対応していた」の低さは目立っていた。

「国情・グローバル」はほとんどの項目で2番目であったが、「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」は最も低く、この辺りに不満を持っているものと思われる。

教員および学習支援評価 学科別比較



学生サポートに関して

学生サポートの満足度

学生サポートに関しては、まず各サポートの利用の有無を聞き、利用経験が「有り」という回答者にのみ、その満足度を聞いた。グラフは利用者の多いものから順に並べている。

利用者が最も多かったのは「LC」で、82.7%が利用経験ありと答えていた。次いで、「事務局窓口」が80.6%であり、この2項目は8割を超えていた。

授業に関連する「学習支援計画書」は63.2%であり、これに関してはやや低いのではないかと思われた。

一方、利用者が最も少なかったのは「オフィスアワー」であり、利用者の割合は22.3%であった。「自己開発センター」(22.5%)、「地域連携教育センター」(26.5%)も利用者の割合は3割を切っていた。

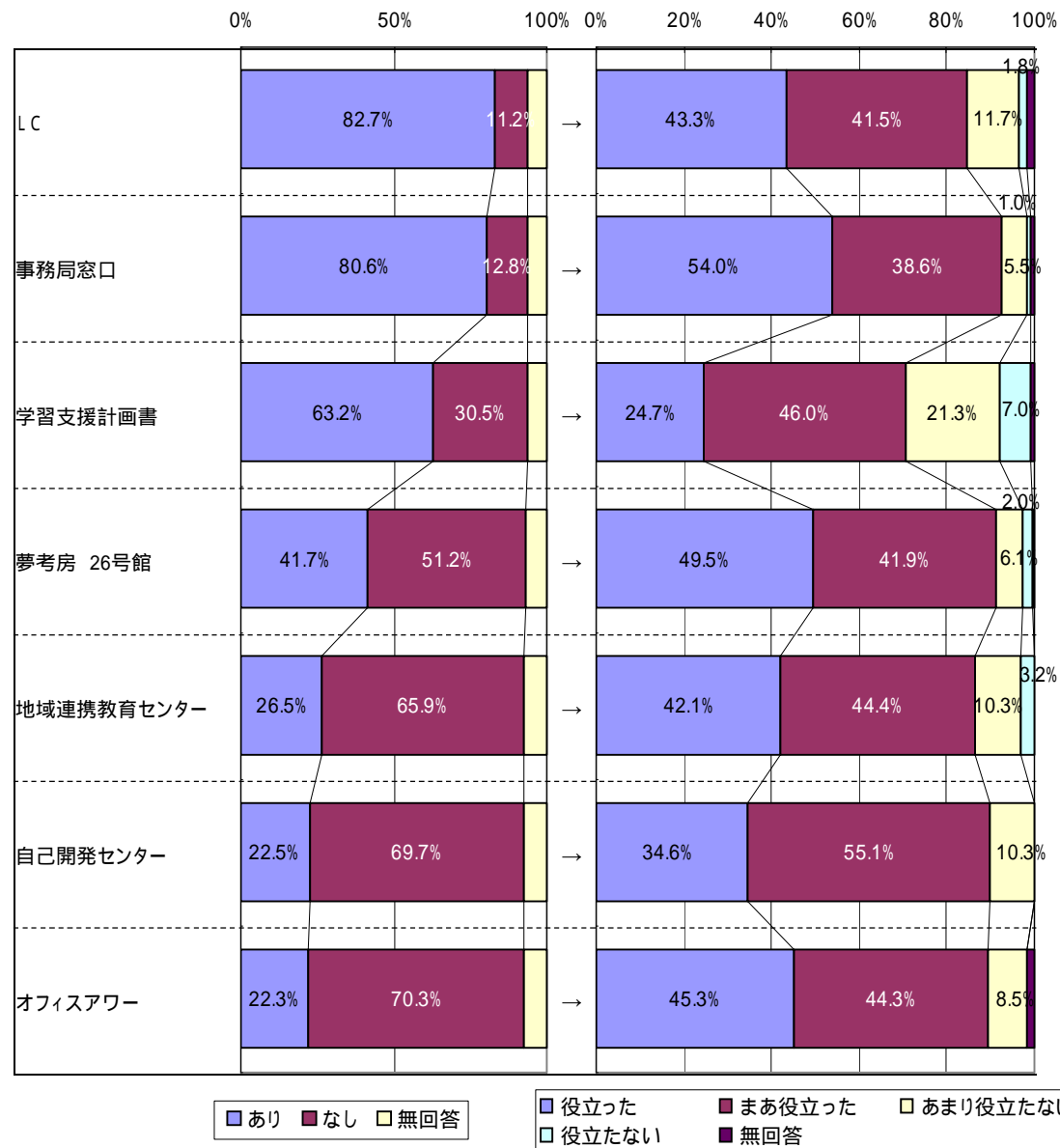
満足度は全体的に高く、「役立った」と「まあ役立った」の合計を見ると、「学習支援計画書」は70.7%であったが、それ以外は8割以上が肯定的な意見を持っていた。

全体的に満足度が高いので「役立った」だけで比較すると、「事務局窓口」では「役立った」が54.0%と最も高く、次いで「夢考房26号館」「オフィスアワー」「LC」と続いていた。

利用者の割合と満足度を見ると、「学習支援計画書」は全ての学生が利用すべきものであるが、3割程度の学生は不満を持っていた。また、「地域連携教育センター」「自己開発センター」「オフィスアワー」は利用者は3割に満たないが、利用者の9割近くが満足しており、利用者の評価は高いことが分かった。

学生サポートの利用の有無(左グラフ)と満足度(右グラフ)

(満足度は利用者からの結果)



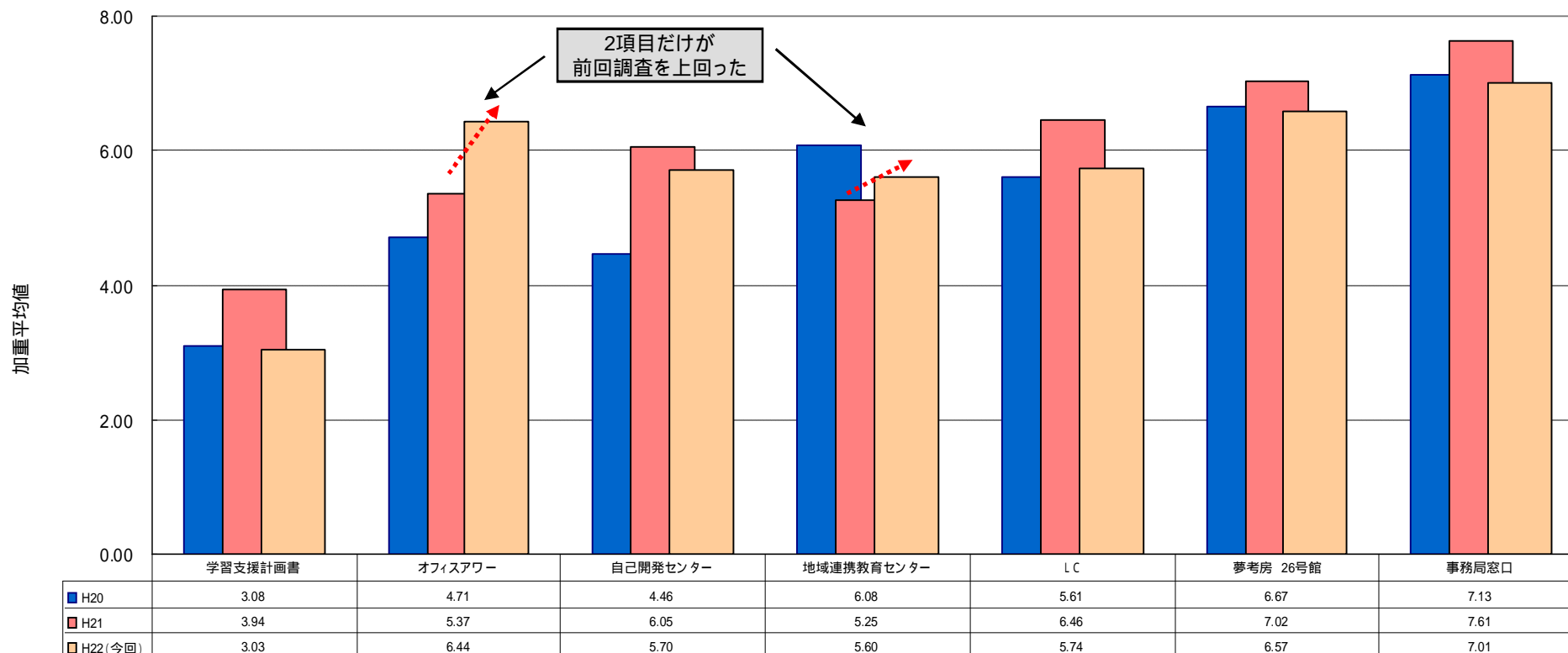
学生サポートの満足度(利用者のみ)の年度別比較

学生サポートの利用者の評価を年度別に比較したところ、「オフィスアワー」と「地域連携教育センター」の2つは前回よりも評価が上がっていたが、その他の項目は全て前を下回っていた。

「オフィスアワー」はH20から継続的に評価が上がってきており、今回の評価上昇も大きかった。「地域連携教育センター」はH20からH21にかけては評価が低下していたが、今回はわずかではあるが前を上回っていた。

上記の2項目以外は全てH20からH21にかけて評価が上がっていたが、今回は前を下回り、全て同じ傾向となっていた。特に「学習支援計画書」は前を大きく下回っており、何らかの要因があるのではないかとされる。

学生サポート評価 年度別比較



学生サポートの満足度(利用者のみ)の学科別比較

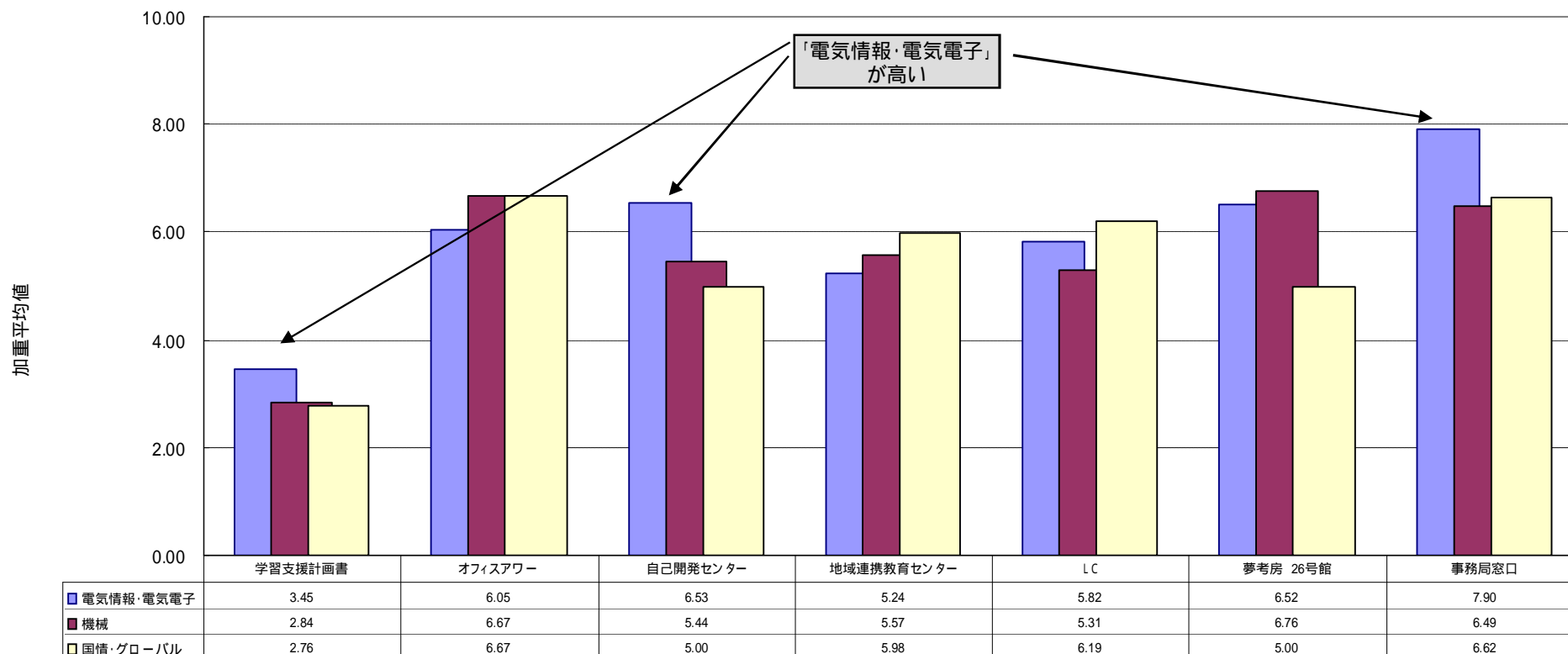
学生サポートの満足度を学科別に比較したところ、学科間の差はそれほど大きくなかった。

「電気情報・電気電子」は「学習支援計画書」「自己開発センター」「事務局窓口」の評価が高く、「オフィスアワー」「地域連携教育センター」の評価がやや低めであった。

「機械」は全体的に中庸な評価であったが、「夢考房26号館」の評価は最も高く、学科の特徴が見られた。一方、「LC」「事務局窓口」の評価は最も低かった。

「国情・グローバル」は「地域連携教育センター」「LC」の評価は最も高く、「夢考房26号館」の低さが目立っていた。また、「自己開発センター」の評価も最も低かった。

学生サポート評価 学科別比較



学校の取り組み姿勢に関して

学校の取り組み姿勢

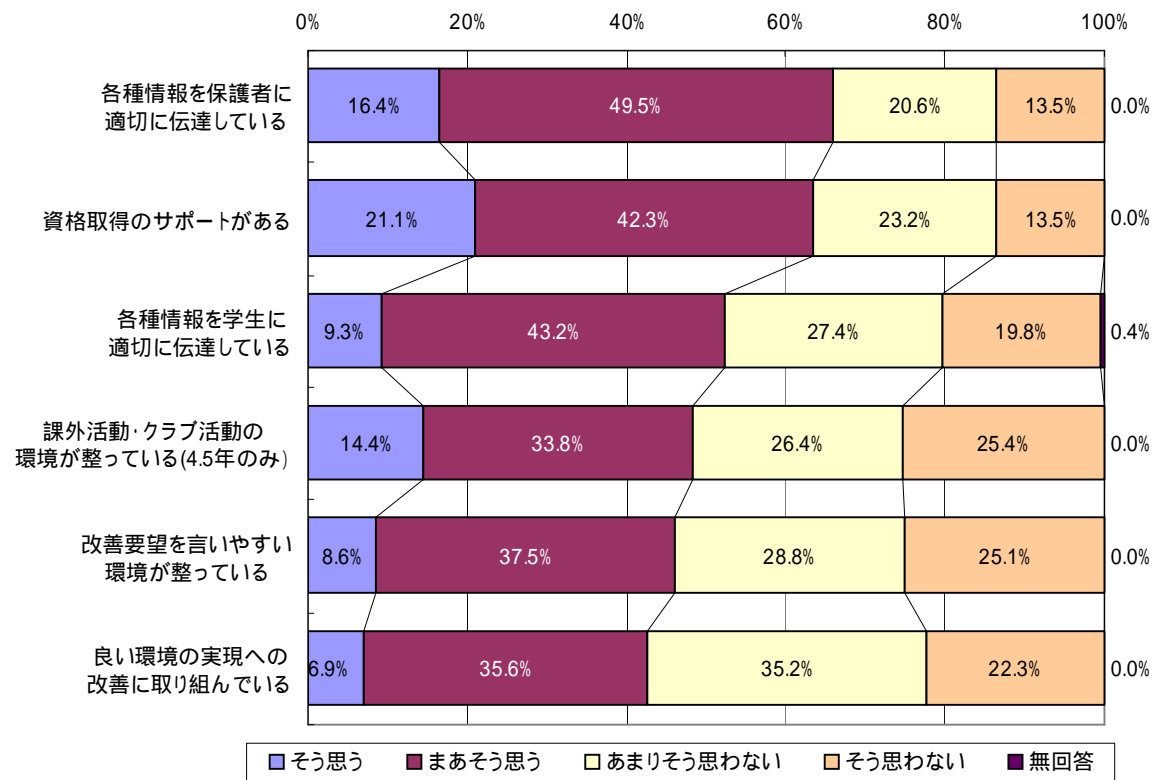
情報伝達や改善への取り組みなど、学校の取り組み姿勢に関して6つの項目を聞いた。「資格取得のサポートがある」は今回新たに加えた項目となる。

「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較すると、「各種情報を保護者に適切に伝達している」では65.9%、「資格取得のサポートがある」では63.4%が肯定的な評価をしており、この2項目は6割以上が良い評価となっていた。

一方、最も評価が低かったのは「良い環境の実現への改善に取り組んでいる」で、肯定的な意見は42.5%にとどまっていた。また、「改善要望を言いやすい環境が整っている」も肯定的な意見は46.1%にとどまっており、学生は改善が進んでいるように受け止めていないものと思われる。

「課外活動・クラブ活動の環境が整っている」という質問は「4年生」と「5年生」だけに聞いたものであるが、肯定的な意見は約半数で、「そう思わない」だけを見ると25.4%と最も多く、「課外活動・クラブ活動の環境」に強い不満を持っている学生が少なくなると言える。

学校の取り組み姿勢の評価(在学生のみ)



学校での過ごし方に関して

学校での過ごし方

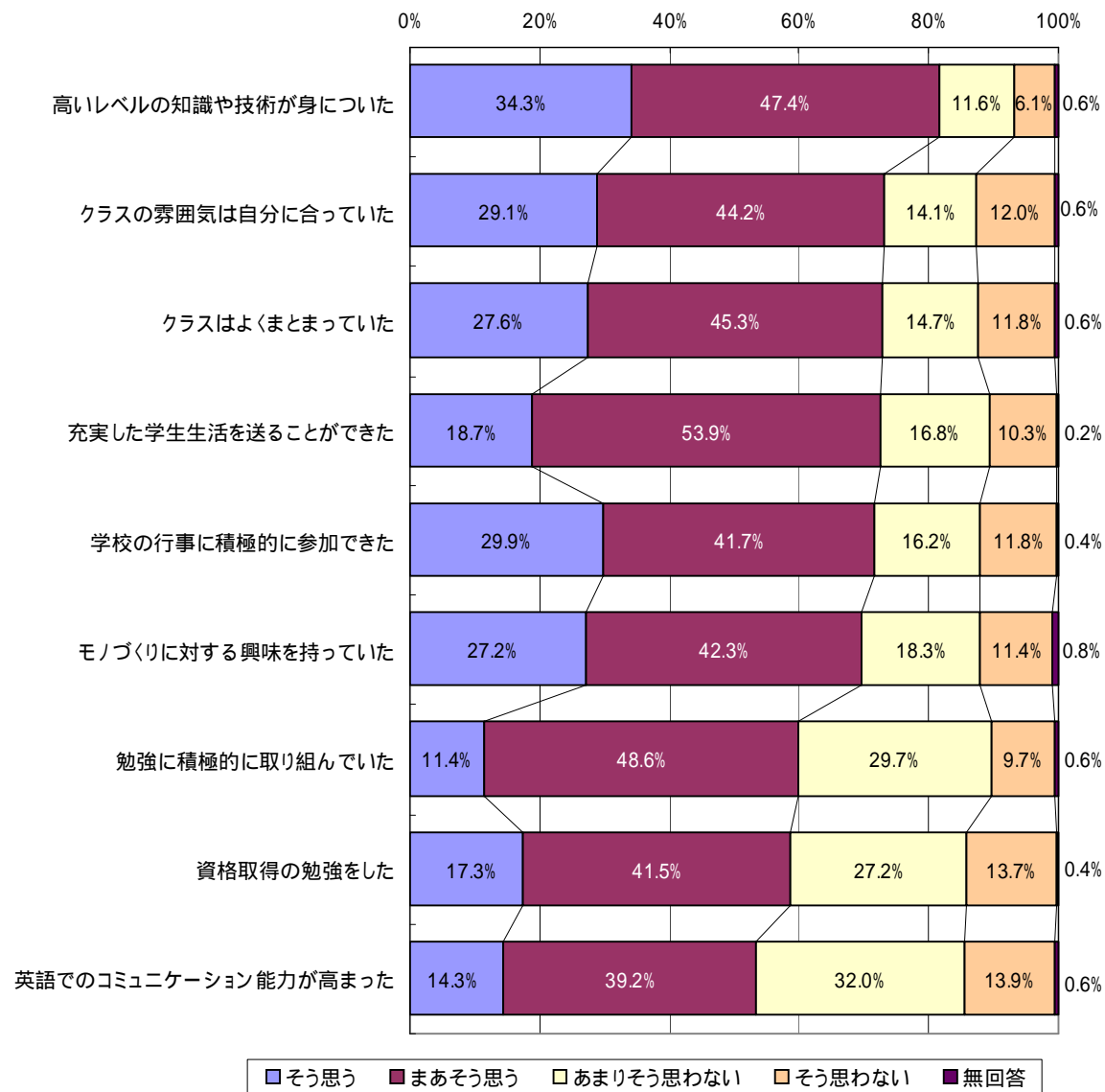
学校での過ごし方に関して、「そう思う」と「まあそう思う」の合計で見ると、「高いレベルの知識や技術が身についた」が最も高く、81.7%が肯定的な意見であり、知識や技術の面では成長を感じていた。

上記に次いで「クラスの雰囲気は自分に合っていた」(73.3%)、「クラスはよくまとまっていた」(72.9%)と続いており、クラス内の関係は良さそうであった。

「充実した学生生活を送ることができた」は72.6%が肯定的な意見であったが、およそ3割がやや不満を感じていると言え、しっかりと状況把握をしておく必要があると思われる。

一方、「英語でのコミュニケーション能力が高まった」「資格取得の勉強をした」「勉強に積極的に取り組んでいた」は肯定的な意見が5～6割であり、勉強面への取り組み姿勢は積極的とはいいいにくい結果となっていた。特に「勉強に積極的に取り組んでいた」では「そう思う」は11.4%と最も少なかった。

学校での過ごし方(在学生のみ)

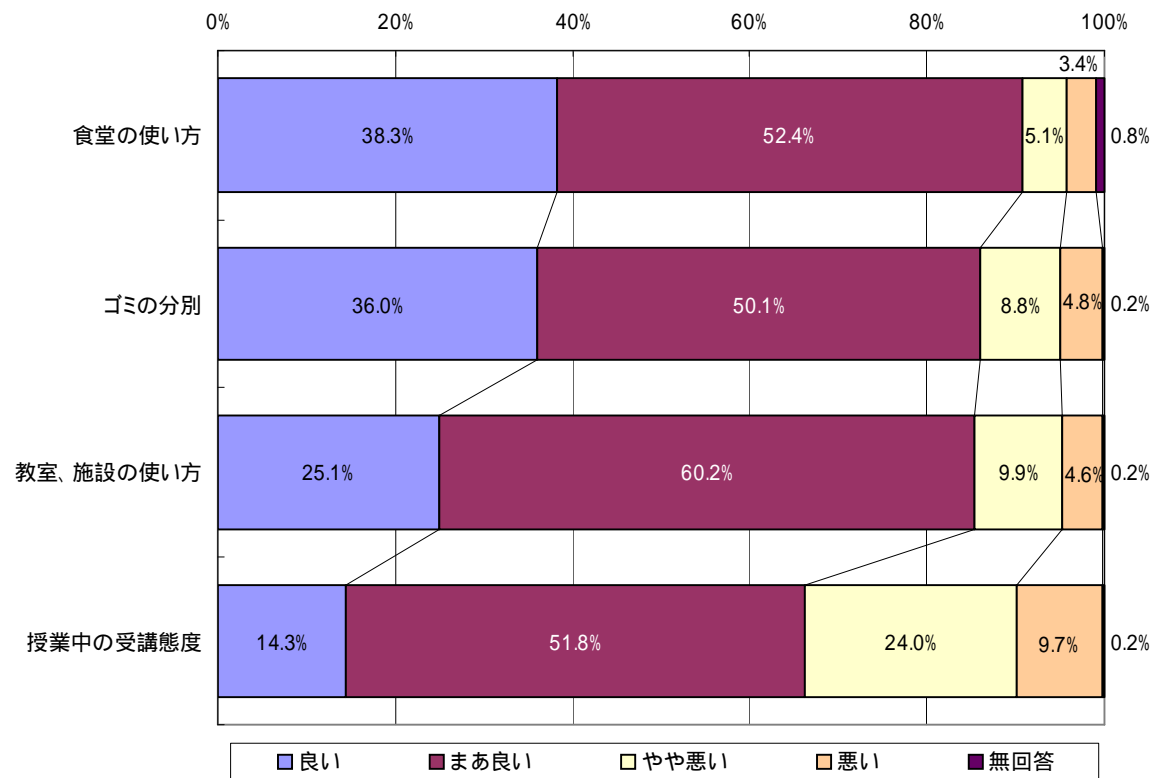


学内での自分自身のマナーに関して

学内での自分自身のマナー

学内でのマナーに関しては、「自分自身のマナーをどう思うか？」と自己評価を聞いている。
「良い」と「まあ良い」を合わせたもので比較すると、最も自己評価が高かったのは「食堂の使い方」であり、90.7%がマナーに問題はないと考えていた。
上記に次いで「ゴミの分別」(86.1%)、「教室、施設の使い方」(85.3%)と続いており、この辺りに問題は感じていないようであった。
「授業中の受講態度」に関しては、「やや悪い」が24.0%、「悪い」が9.7%であり、全体の3割以上は問題があると感じていた。

学内での自分自身のマナー(在学生のみ)



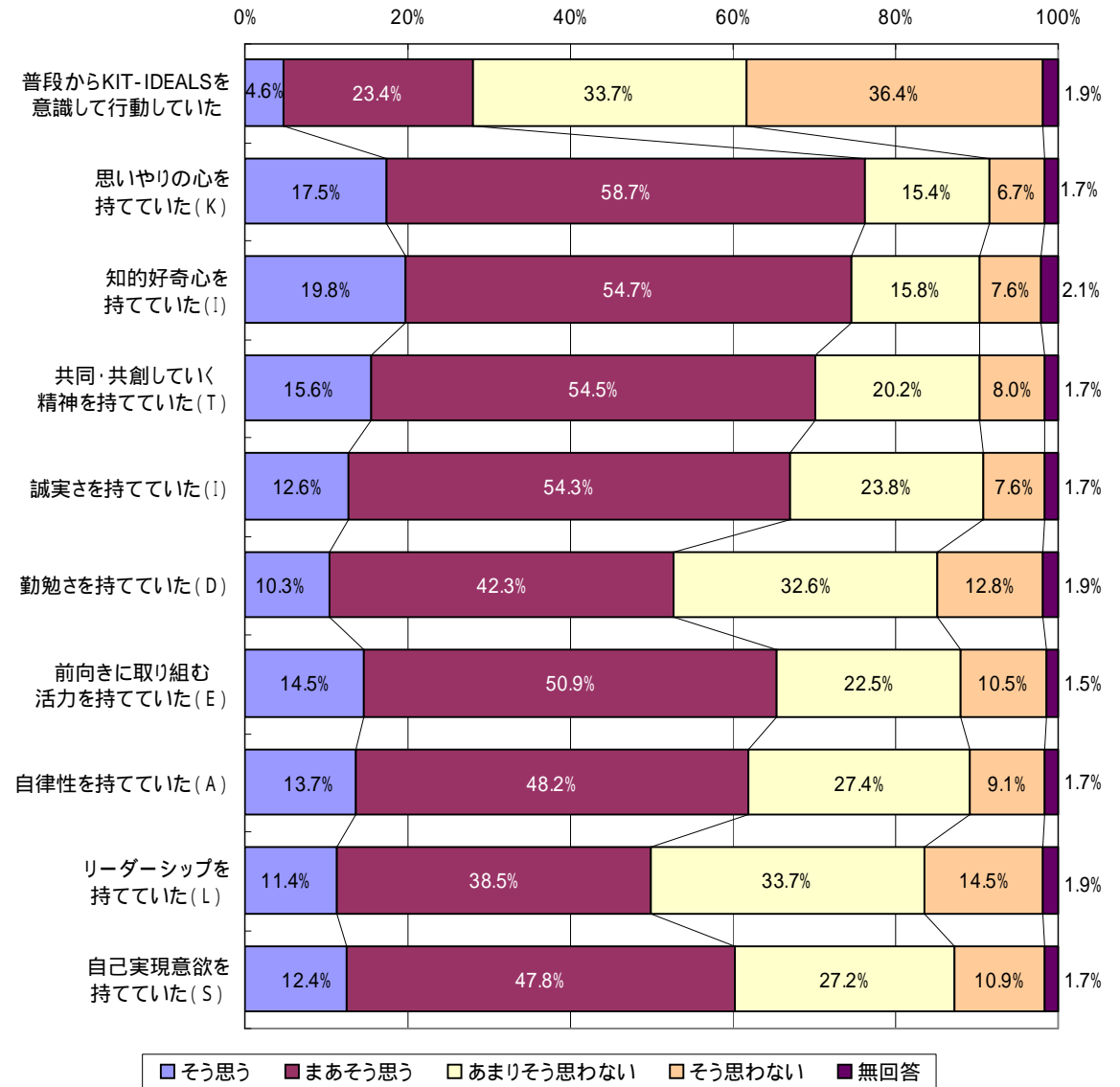
KIT-IDEALSに関して

KIT-IDEALSに関して

学生のKIT-IDEALSに対する意識を聞いた。
 「そう思う」と「まあそう思う」を合わせたもので見ると、「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」という学生は28.0%であり、7割は意識していないという答えであった。

項目別に見ると「思いやりの心を持っていた(K)」は76.2%が肯定的な意見であり、全体の中で最も高く、次いで「知的な好奇心を持っていた(I)」「共同・共創していく精神を持っていた(T)」と続いていた。最も肯定的な意見が少なかったのは「リーダーシップを持っていた(L)」で、肯定的意見は半数に届かず、「勤勉さを持っていた(D)」の低さも目立っていた。

KIT-IDEALSに関して (在学生のみ)



就職・進学支援に関して

就職・進学支援に関して

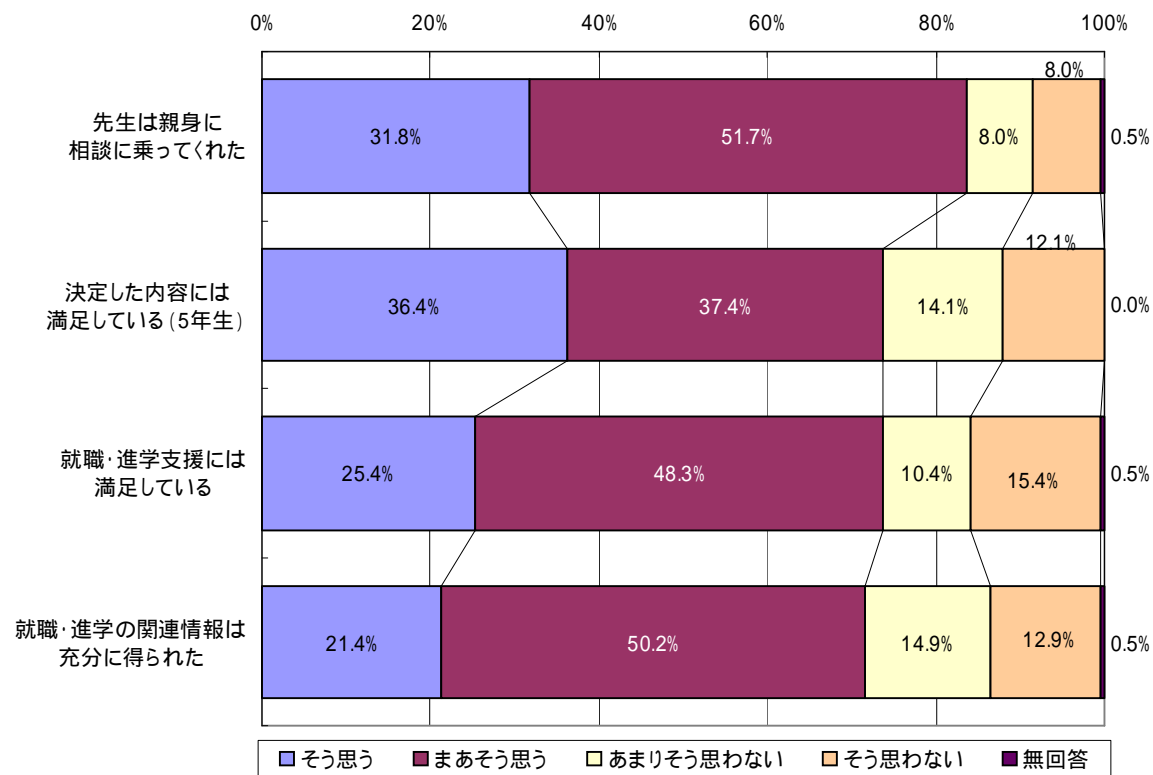
就職・進学支援に関しては4年生と5年生にのみ聞いている。

全体的に満足度の高さがうかがえるが、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合で比較すると、特に「先生は親身に相談に乗ってくれた」では83.5%が肯定的な意見であり、教員の対応の満足度は高いと言える。

「決定した内容には満足している」は「5年生」のみに聞いているが、「そう思う」は36.4%と最も多く、「まあそう思う」(37.4%)を加えると73.8%は満足しているようであった。

「就職・進学の関連情報は十分に得られた」は「そう思う」が21.4%、「まあそう思う」が50.2%であり、合わせると71.6%が満足と答えていたが、他の項目と比べると満足度は低く、改善の余地があるのではないかとと思われる。

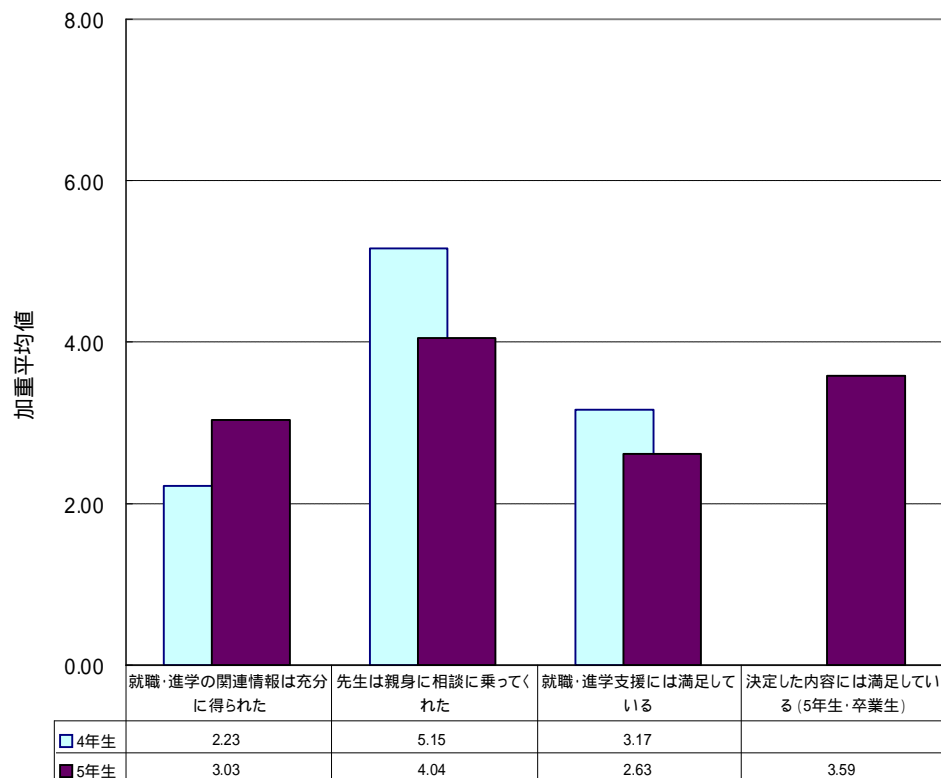
就職・進学支援の評価(4年生、5年生のみ)



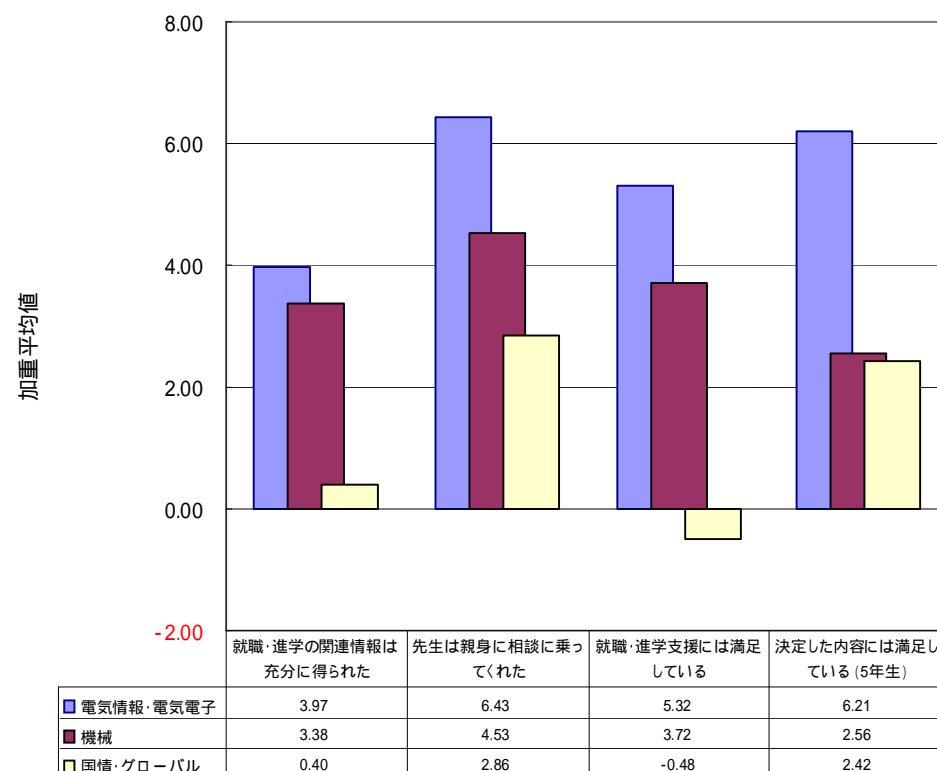
就職・進学支援の学年別比較 学科別比較

「就職・進学支援」の評価は「4年生」と「5年生」に聞いているが、「就職・進学の関連情報は十分に得られた」は「5年生」の方が評価が高かったが、「先生は親身に相談に乗ってくれた」「就職・進学支援には満足している」の2項目は「4年生」の方が高い評価となっていた。学科別に比較したところ、全ての項目で「電気情報・電気電子」の評価が最も高く、次いで「機械」「国情・グローバル」という順であった。「電気情報・電気電子」は特に「決定した内容には満足している」の高さが目立っており、「先生は親身に相談に乗ってくれた」も高かった。「機械」は全体的に中庸な評価であったが、「決定した内容には満足している」は「国情・グローバル」と同じ程度の満足度であった。「国情・グローバル」は全項目で最も低いスコアであったが、特に「就職・進学の関連情報は十分に得られた」と「就職・進学支援には満足している」の低さが目立っており、情報不足やサポート不足を感じているものと思われる。

就職・進学支援の評価 学年別比較



就職・進学支援の評価 学科別比較



クラブ活動に関して

クラブ活動の現状に関して

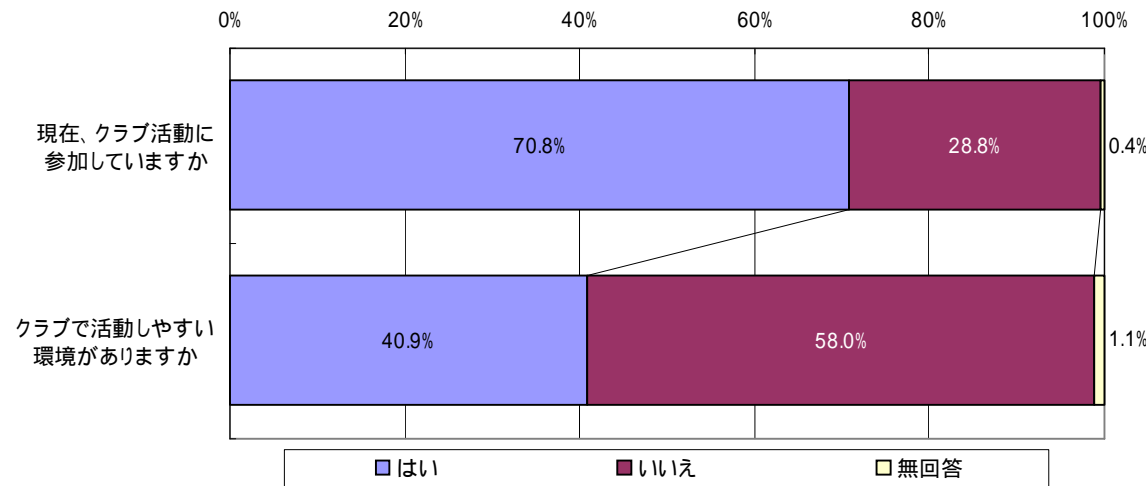
今回新たにクラブ活動に関する質問を加え、「1年生」から「3年生」に対して、クラブ活動の現状とサポートの満足度などを聞いている。

「現在、クラブ活動に参加していますか」という質問に対しては、70.8%が「はい」と答えていた。また、「クラブで活動しやすい環境がありますか」という質問には40.9%が「はい」と答えており、7割が参加しているが、6割は環境に不満を持っていると感じていることが分かった。

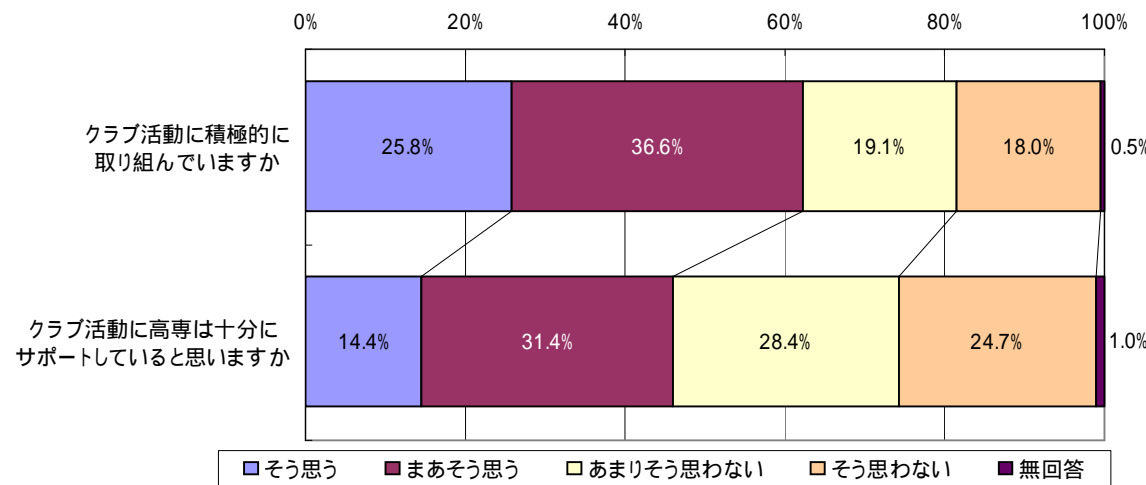
クラブ活動の参加者に対して「クラブ活動に積極的に取り組んでいますか」と聞いたところ、「そう思う」は25.8%、「まあそう思う」は36.6%であり、合わせると62.4%は積極的に取り組んでいることが分かった。

「クラブ活動に対して高専は十分にサポートを行っていると感じますか」という質問には14.4%が「そう思う」、31.4%が「まあそう思う」と答えており、合わせると十分だと感じる意見は45.8%という結果となった。

クラブ活動の現状に関して(1~3年生のみ)



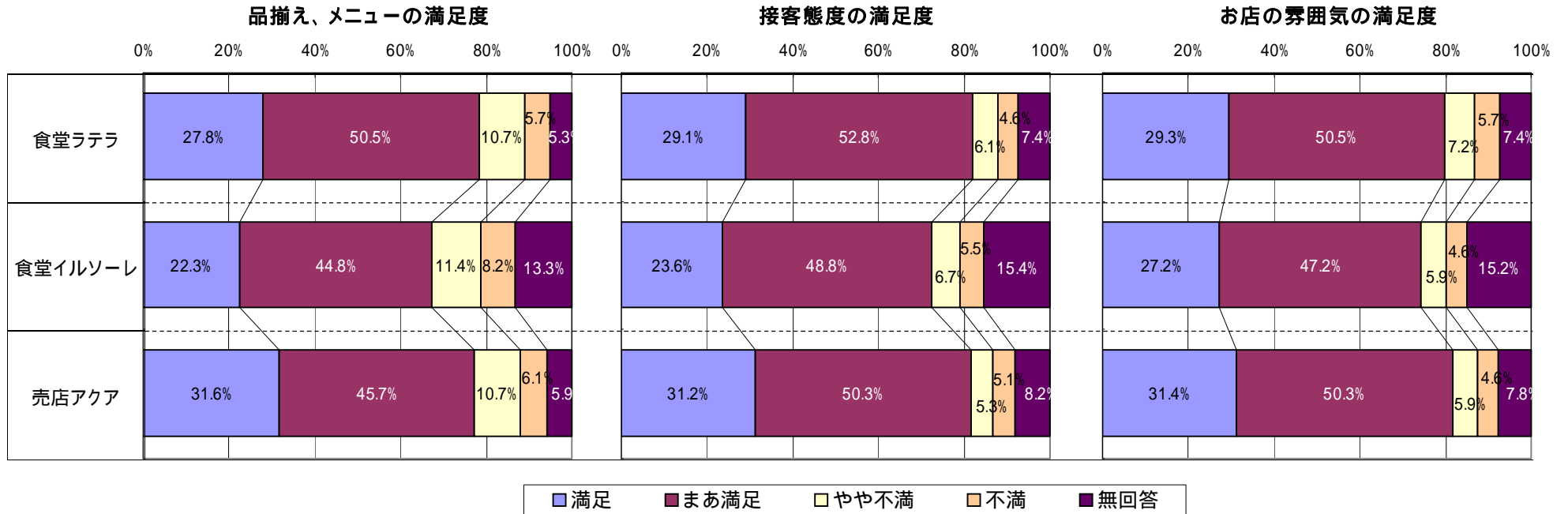
クラブ活動参加者の現状評価(1~3年生、クラブ活動参加者のみ)



KIT Eagle's FUNに関して

食堂、売店の評価

学内の食堂である「ラテラ」「イルソーレ」と売店「アクア」の3つに対して、「品揃え、メニュー」「接客態度」「雰囲気」の3点の評価を聞いた。
 「品揃え、メニュー」に関して「満足」と「まあ満足」の合計を見ると、「ラテラ」と「アクア」に関しては8割程度が満足しており、「イルソーレ」は7割程度が満足と答えていた。ただし、「イルソーレ」は利用経験のない学生が答えたものと思われるが、「無回答」が13.3%と多かった。
 「接客態度」に関して「ラテラ」と「アクア」の満足度は8割程度が満足しており、「イルソーレ」は「無回答」が15.4%と多いものの72.4%が満足と答えていた。
 「お店の雰囲気」に関して「ラテラ」と「アクア」に関しては8割が満足しており、「イルソーレ」は74.4%が満足と答えていた。「お店の雰囲気」に関しては3つの施設の差が少なかった。

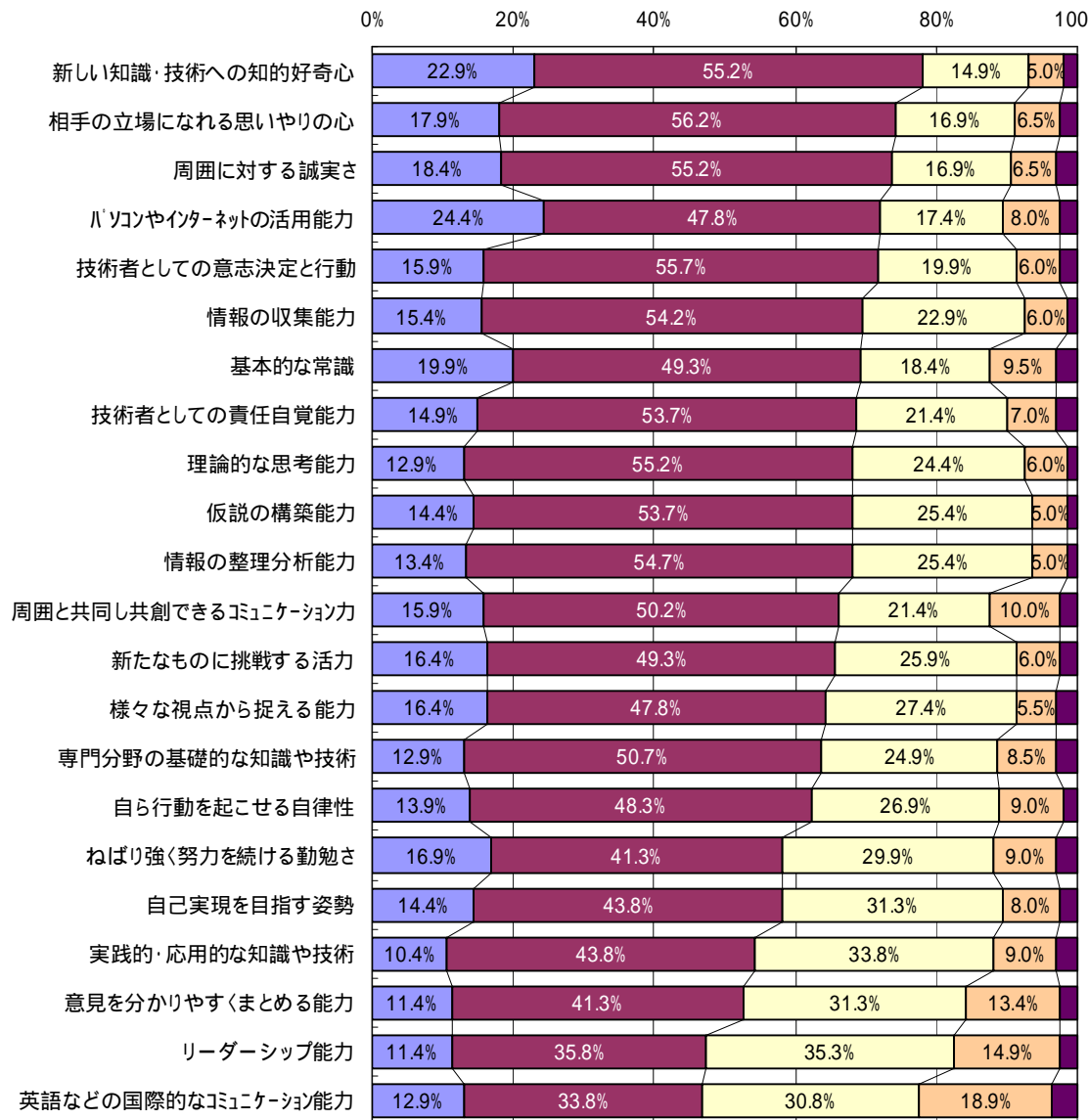


学生の能力に関して

自分自身の能力に関して

「学生自身の現段階の自分自身の能力」に関しては、4年生、5年生の2学年だけに聞いている。
 「満たしている」と「少し満たしている」を合わせた肯定意見で比較すると、「新しい知識・技術への知的
 好奇心」が最も多く、次いで「相手の立場になれる思いやりの心」「周囲に対する誠実さ」と続いており、
 これらは学生が自信を持っている点だと言える。
 一方、最も少なかったのは「英語などの国際的なコ
 ミュニケーション能力」であり、「リーダーシップ能
 力」とともに満たしているという回答は半数に至らな
 かった。
 「意見を分かりやすくまとめる能力」「実践的・応用
 的な知識や技術」なども満たしているという意見は
 少なく、学生自身が欠けていると感じている能力だ
 と言える。

学生が考える現段階の自分自身の能力



■ 満たしている ■ 少し満たしている □ あまり満たしていない □ 満たしていない ■ 無回答

教職員による卒業生の能力評価

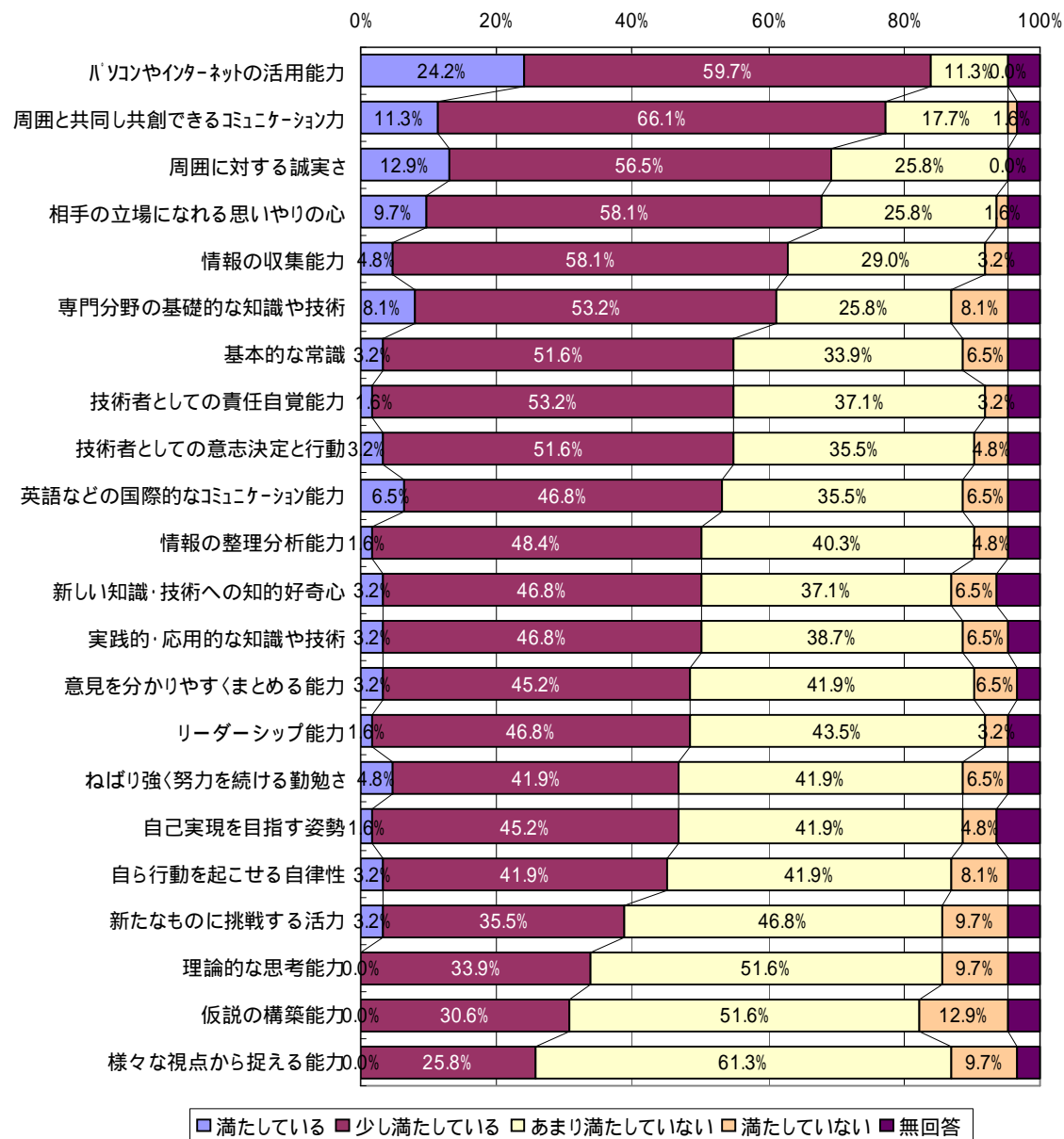
教職員には卒業生の卒業時の能力の評価を聞いているが、最も高かったのは「パソコンやインターネットの活用能力」であった。この項目は「満たしている」が24.2%と非常に多く、教職員はこの点がKTC卒業生の強みだと考えているようであった。

上記に次いで「周囲と共同し共創できるコミュニケーション能力」「周囲に対する誠実さ」と続いており、コミュニケーション面の能力が上位に見られた。

一方、最も低かったのは「様々な視点から捉える能力」であり、「仮説の構築能力」「理論的な思考能力」と続いており、物事の捉え方や思考方法に課題があると考えているようであった。

また、「新たなものに挑戦する活力」「自ら行動を起こせる自律性」「自己実現を目指す姿勢」なども低く、これらを見ると、教職員はKTCの学生に対し、積極性に課題を感じているのではないかと思われる。

教職員による卒業生の能力評価



金沢高専の授業と教員業務に関して

教員の「授業および学習支援」の自己評価

教員に「授業および学習支援」の自己評価を聞いたところ、全体的に自己評価は高く、全項目で8割以上はできていると回答していた。

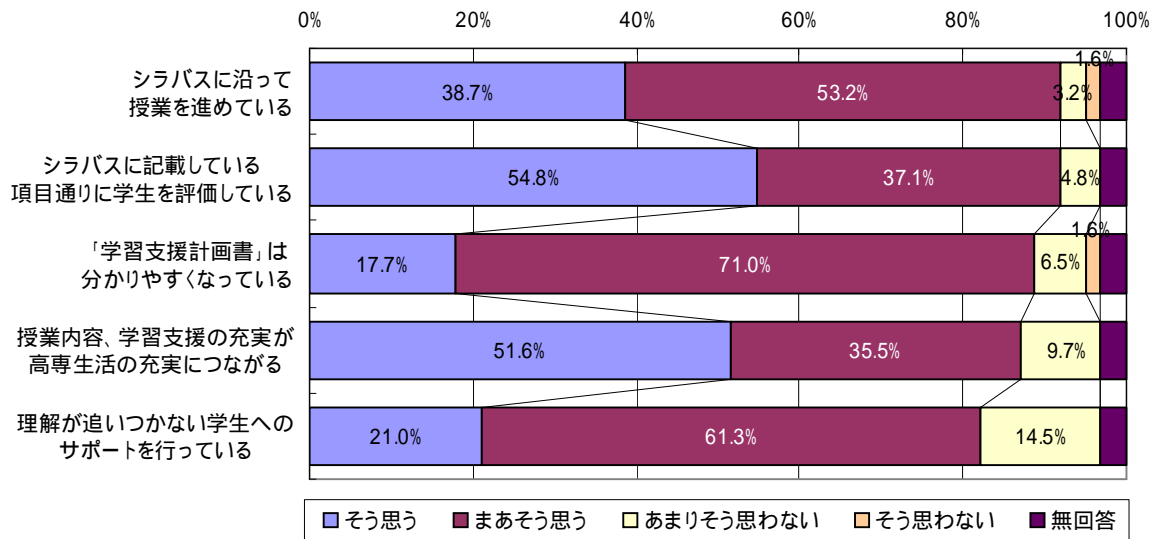
シラバスに関して「そう思う」で比べると、「シラバスに記載している項目通りに学生を評価している」では54.8%が「そう思う」と評価しており、「シラバスに沿って授業を進めている」は38.7%、「学習支援計画書は分かりやすくなっている」は17.7%で、教員は「学習支援計画書」に課題を感じているようであった。

「授業内容、学習支援の充実が高専生活の充実につながる」では51.6%が「そう思う」と答えしており、授業や学習支援の重要性を感じている意見が多かった。

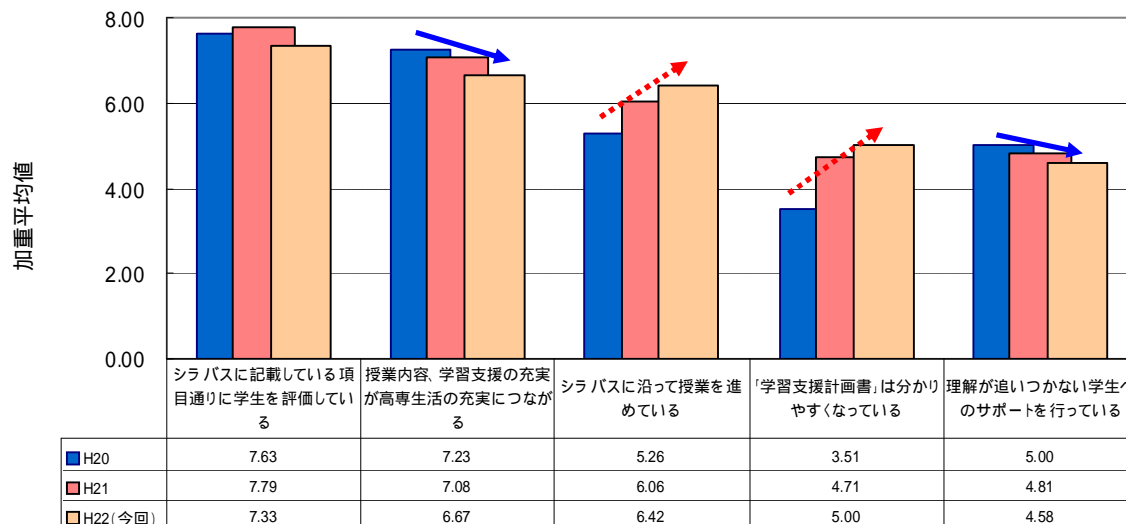
年度別比較を見ると、それほど大きな変化は見られなかったが、「シラバスに沿って授業を進めている」「学習支援計画書は分かりやすくなっている」の2項目は徐々に自己評価が上がってきていた。

一方、「授業内容、学習支援の充実が高専生活の充実につながる」と「理解が追いつかない学生へのサポートを行っている」の2項目は、わずかずつではあるが肯定的な意見が減少していた。

教員の「授業および学習支援」の自己評価



教員の「授業および学習支援」の自己評価 年度別比較



教職員の意識に関して

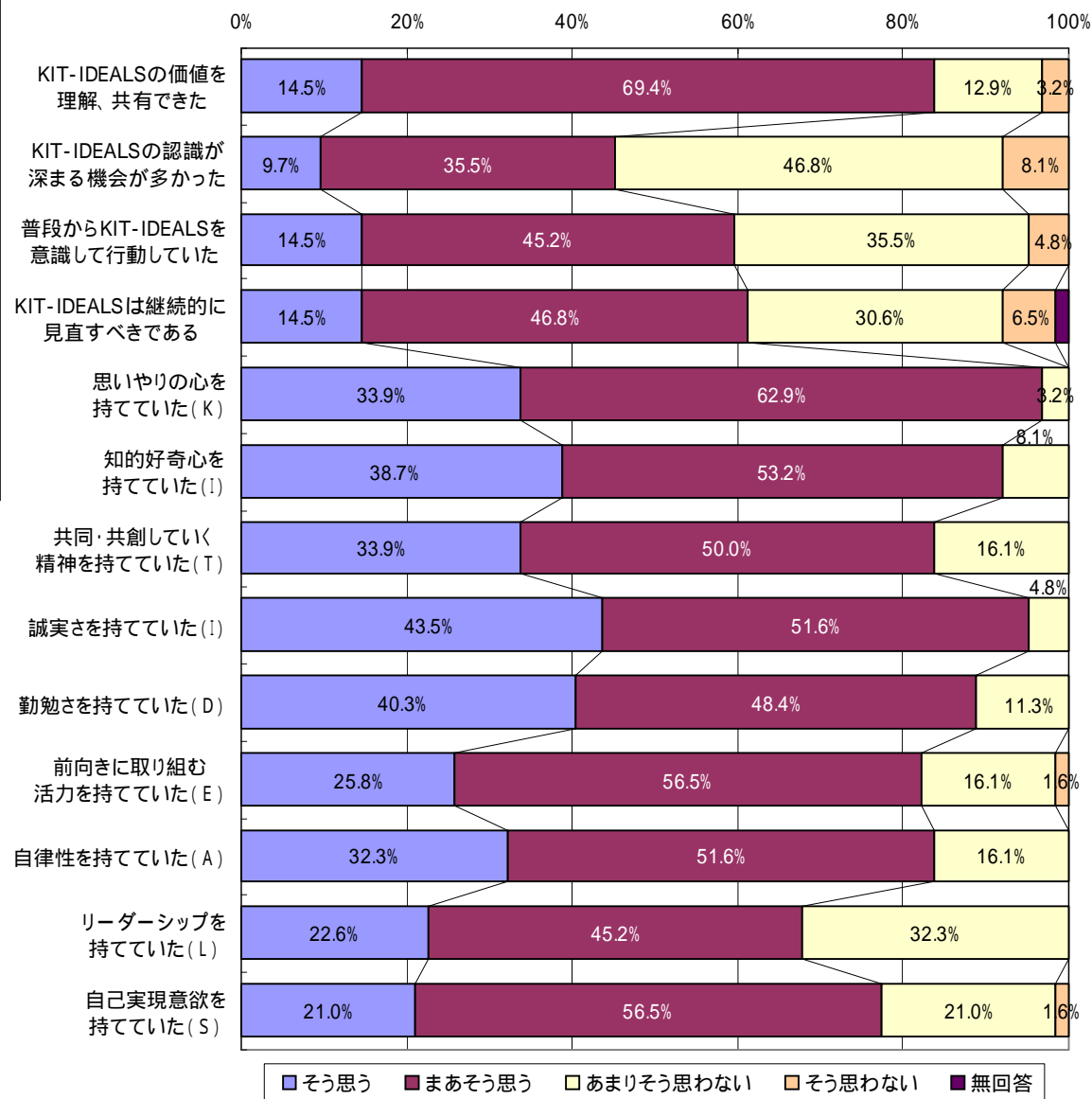
教職員のKIT-IDEALSに関する意識

教職員に「KIT-IDEALS」に関する意識を聞いたところ、「KIT-IDEALSの価値を理解、共有できた」という意見は83.9%と高かった。しかし、「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」では59.7%が肯定的な意見であったが、40.3%が意識していなかったと答えていた。

「KIT-IDEALS」の各項目に関しては、「思いやりの心を持っていた(K)」は96.8%が肯定的な意見であり、「知的な好奇心を持っていた(I)」(91.9%)、「誠実さを持っていた(I)」(95.1%)を合わせた3項目は9割以上が肯定的な意見であった。

一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「リーダーシップを持っていた(L)」の67.8%であり、「自己実現意欲を持っていた(S)」(77.5%)が続いており、この辺りの意識に課題があるようであった。

KIT-IDEALSに関して(教職員)



<7-3> 全体の課題のまとめ

総合調査から見える改善ポイントの全体像

< 学生の満足度や目的・目標志向に関して >

満足している学生が減少に転じている事実の認識

「電気情報・電気電子」の学生はいつも満足度が高いことの要因の把握

入学後に満足度低下がない「現3年生」の傾向の把握

< 授業・学習サポートに関して >

前回と同様に英語系授業に問題がないか、要確認

「2年生」が教員とのコミュニケーションに不満を持っており、この実態の把握が必要

「学習支援計画書」が低学年でしっかり理解されて活用されているかを確認

< 学校での過ごし方に関して >

「情報不足」が学校の不満につながっている可能性があり、その実態を把握

「クラブ活動」の課題は改善される方向にあると思われるが、継続的にPDCAサイクルを回す必要がある

< その他の環境に関して >

「就職・進学支援」の満足度低下の要因をしっかりと把握し、社会環境にあった対応を続ける

「国情・グローバル」は早い時期に「就職に不利」といった先入観を持っていたが、その実態を把握し、不利と感じさせない支援が必要

教員調査から見えた課題

KTCに満足している教職員は7割弱であり、前回と比べて減少していた。また、建学の精神に共感できるという割合は継続的に減少していた。前回課題であった「クラブ指導」は改善される方向にあるが、継続的に状況を把握し、必要に応じて対策を続けていく必要がある。教職員は情報共有や部署間の連携に課題を感じており、その実態の把握と改善を進める必要がある。

平成22年度

KTC総合アンケート調査結果[報告書]

| | |
|----------|--------------|
| 発行日 | 平成23年5月31日 |
| 発行者 | 金沢工業高等専門学校 |
| 調査票設計・分析 | 有限会社 アイ・ポイント |
| 編集 | 金沢工業大学企画部CS室 |

無断複製厳禁

再生紙を使用しています